

中標津町まちづくりフォーラム 開催結果報告書

<詳細版>

令和2年3月

中標津町

目 次

第1章 フォーラム概要.....	1
1-1 開催目的.....	1
1-2 開催日時・場所.....	1
1-3 開催案内.....	2
第2章 フォーラム実施結果.....	4
2-1 参加者.....	4
2-2 開催概要.....	5
2-2-1 開会挨拶.....	5
2-2-2 第1部 話題提供.....	6
2-2-3 第2部 みんなで話そう！対話の場.....	33
2-2-4 講評.....	65
第3章 フォーラム参加者アンケート.....	67
3-1 調査票.....	67
3-2 調査結果.....	68

1-3 開催案内

フォーラムの開催案内は、案内チラシの新聞折り込み、中標津町広報誌への掲載、町民アンケートでの案内希望者への連絡、関係者からの連絡等により対応しました。

まちづくりフォーラム 2020 参加無料

2/1 (土)
13:30 ~ 16:00
ウェディングプラザ寿宴
ウェディングホール
(中標津町東 3 条北 1 丁目 8)

中標津町のこと、これからのまちづくり
を考えるフォーラムを開催します!

現在、中標津町では、未来に向けてどのようなまちにしてい
くか、みなさんの意見を反映しまちづくりの具体性のある将来ビ
ジョンを確立し、あるべき「まち」の姿を定める中標津町都市
計画マスタープラン（都市マス）の見直しを行っています。

この都市マスは、町民等で組織する策定委員会で検討して
いますが、計画の内容を決めるためには、町民みなさんの声が
必要です。そしてそれを実現するのは、中標津町に住む私たち
です。たくさんのご意見をいただけるようフォーラムでは気軽に
意見交換の場をつくりましたので、この機会に是非ご参加くだ
さい。また、会場内では「プチしずおかフェア」も開催しますの
で楽しみに!

お菓子やお茶をご用意します。
どうぞお気軽に
ご参加ください。

プログラム

第 1 部 話題提供

①【情報提供】都市マスの見直しと街づくり協議会の
取り組みについて

②【講演】掛川市における協働のまちづくり

第 2 部 みんなで話そう! 対話の場

中標津町をさらに暮らしやすく素敵なまちにしていけるた
めのアイデアを出し合い、参加者同士で楽しく“対話”
をする意見交換の場です。

申込締切 1/29 (水) 中標津町建設水道部都市住宅課街づくり推進係
電 話 : 0153-73-3111 (内線 353)
FAX : 0153-73-5333
メール : machisui@nakashibetsu.jp
ネット : <https://www.harp.lg.jp/0ncZucYu>
(右の2次元バーコードからもアクセスできます)

お申込みはお早めに
電話/FAX/メール/ネットで

お名前	年齢	ご住所	連絡先(電話番号)

主催: 中標津町、まちづくりフォーラム 2020 実行委員会

図 1-2 案内チラシ (1/2)

まちづくりフォーラムプログラム

第1部 話題提供

①【情報提供】都市マスの見直しと街づくり協議会の取り組みについて 中標津町 都市住宅課

私たちの暮らすまちをどんな風にしていくか考える「中標津町都市計画マスタープラン（都市マス）」の見直しを行っています。都市マスとは何か、どのように計画を作っていくのかについて簡単にご説明します。

また、地域の特性を踏まえたまちづくりを進めるため、町内の3つの地域で街づくり協議会が設立され、地域のまちづくり活動を行っています。各協議会の取り組みについて紹介します。

②【講演】掛川市における協働のまちづくり 掛川市協働環境部 部長 栗田 一吉 氏

協働のまちづくりの先進地である静岡県掛川市から、どのように市を挙げて“協働”にチャレンジしたかなど、貴重なお話をいただきます。

掛川市は、昭和54年に全国に先駆けて「生涯学習都市宣言」を行ったまちです。掛川市の生涯学習は、個人の生涯学習に留まらず、個人の生涯学習により高まった市民力を自らが住むまちのまちづくりに活かしていくという理念を持っています。

各地区への説明会、ワークショップなどを展開して、現在、市内31地区の「地区まちづくり協議会」が活動を行っています。

第2部 みんなで話そう！対話の場

今は使われていないあの場所を、こんな風に使えないか？ まちなかにもっと賑わいを生むために、こんなことをしたらいいのでは？ など、中標津町をさらに暮らしやすく素敵なおまちにしていくためのアイデアを出し合い、参加者同士で楽しく“対話”します。

“対話”とは、相手の意見を尊重し、相手の立場に立って、新たな解決策を導く話し合いのことです。

地域には様々な人が暮らし、多様な意見を持っています。ほかの方の意見を聴くことで気づき生まれ、人のつながりができ、次へのアクションにつながります。

町民同士の対話を重ねながら、これからのまちづくり・ひとづくりと一緒に考え、実践していく第1歩として、対話の場を行います！

①自己紹介や簡単なゲームを通して緊張をほぐします



②グループごとに分かれて対話をします



③各グループでどんな話がでたか発表します



13:00 ~ 16:00

会場で同時開催

プチしずおかフェア

今回ゲストとしてお越しいただく静岡県掛川市のご協力により、とってまろやかでコクがある充実したうま味、濃厚で鮮やかな緑色、深みある芳醇な香りの「掛川茶」など静岡県内の特産品販売を同時開催します。

ここでしか買えない商品も揃える予定です。この機会にぜひフォーラムへの参加の際にお立ち寄りください。

（数には限りがありますので無くなり次第終了となります）



図 1-3 案内チラシ（2/2）

第2章 フォーラム実施結果

2-1 参加者

フォーラムの全体参加者数は、99 名となりました。内訳は以下の通りです。

＜内訳＞

- ・一般参加者 74 名
- ・町民ファシリテーター 12 名
- ・講師 2 名
(掛川市協働環境部部長 栗田 一吉氏、北海道大学名誉教授 小林 英嗣氏)
- ・理事者 1 名
- ・事務局 8 名
- ・報道関係者 2 名

2-2 開催概要

2-2-1 開会挨拶

中標津町長 西村 穰

- ・ 本日のフォーラムは中標津の将来について話す場であり、都市計画マスタープランと総合計画の見直しを行っており、町民の方々の意見を反映する大切な場である。
- ・ わが町も人口減少に突入し、将来は2万人を切ると言われている。
- ・ 前回の計画では2万5千人規模の人口を目指して、インフラ整備を進めてきたが、将来的には2万5千人で作ったものを2万人で支えることが必要となってしまう。一方で、他の地域から見れば中標津町はコンパクトにまとまっているという点も挙げられる。
- ・ こういったことも踏まえて、将来に向けて、色々な角度や立場から、意見交換していただきたい。



図 2-1 開会挨拶の様子

2-2-2 第 1 部 話題提供

(1) 【情報提供】都市マスの見直しと街づくり協議会の取り組みについて

中標津町都市住宅課 佐瀬 光史

- ・ 都市計画とは、農林漁業との健全な調和を図りつつ、機能的な都市活動を確保すべきこと、適正な制限のもとに土地の合理的な利用が図られるべきことを基本理念としている。土地の使い方や建物の建て方のルール、道路・公園・下水道などの公共施設の整備計画、都市の将来あるべき姿を想定して、そのために必要な規制・誘導・整備を行うものである。
- ・ 都市の発展を見通して一体の都市として捉える必要のある区域を都市計画区域としている。中標津町では昭和 50 年に指定された。
- ・ 土地利用の用途地域は全部で 13 種類あるが、中標津町ではそのうち 9 種類が指定されている。都市計画道路が 19 路線、都市計画公園、下水道が都市計画で定める都市施設となっている。
- ・ 中標津町では市町村マスタープランを平成 13 年度に策定して、平成 23 年度に見直しをしたところである。
- ・ 都市計画マスタープランの役割は、暮らしやすいまちづくりのための設計図である。大切な役割は、将来都市像を示すこと、そして地域協働を促進することである。
- ・ 今の計画は、将来都市像は環境首都なかしべつを掲げている。1000 年の長期構想であるミレニアムプラン、100 年の夢実現化構想、10 年の総合計画連動構想からなっている。
- ・ 全地域共通のテーマは、①快適なウォーキング環境の整備、②公共交通ネットワークの充実で、各地域でもテーマを設けている。
- ・ 現在地域別の街づくり協議会で動いているのは、中心部地域、西部地域、西町・川西街づくり協議会の 3 つとなっている。
- ・ 中心部地域街づくり協議会：平成 23 年から 9 町内会で設立し、主に親水広場で活動をしている。来週の冬まつりでもライトアップ事業を行うことになっている。
- ・ 西部地域街づくり協議会：平成 24 年から 4 町内会で設立し、親子たこづくり・たこあげ大会や、昨年からは真冬の災害避難所体験も行っている。
- ・ 西町・川西街づくり協議会：平成 23 年に 2 町内会で設立し、緑の名所マップの作成や、桜の植樹・育樹や花の寄せ植え事業などを行っている。
- ・ 都市マスの計画期間は、現在後期計画となっているが、2020 年で終わることから、次のマスタープランとなる計画を作っているところである。
- ・ 策定体制としては、策定委員会を町長が設置して、提言を行うほか、庁内推進会議という役場内での会議もある。また、町民の皆様の意見をこれらの検討に反映している。
- ・ 策定委員会の構成は、学識経験者、町内各団体、街づくり協議会、景観審議会、一般公募、役場部長職を入れます全 22 名で構成している。
- ・ 来年度 12 月前までを目指して計画を取りまとめていく。

- ・ 都市マスの範囲は、都市計画区域に計根別地域を加えている。
- ・ これまでの見直しでは、第1回～3回の策定委員会を経て、昨年の6月に静岡県
掛川市と牧之原市に視察に行っている。並行してアンケートやヒアリングを実施し
て、静岡のほうで勉強した対話の場を9月と11月に実施し、策定委員や町民、そ
して町職員との対話を通してまちづくりのアイデアを出し合った。その後、策定委
員会を経て、本日のフォーラムを迎えている。
- ・ 対話の場とは、相手の意見を尊重し、相手の立場に立って、新たな解決策を導く話
し合いのこと。市民が主体のまちづくりを進める先進地を視察した際に、対話を重
ねること、ひとつづくりに取り組むことの大切さを学んできたところである。
- ・ 今までも、対話の場を通してたくさんのアイデアが出てきた。今日のフォーラムを
はじめ、対話の場を重ねながら、中標津町のひとつづくり・まちづくりを進めていき
たいと考えている。来年度4月以降も地域別まちづくり構想を検討していきたいと
考えている。
- ・ 人口については、平成25年の推計値よりも平成30年の推計値が厳しいものとな
っている。人口動態の自然減が多くなってきている状況にある。
- ・ 合計特殊出生率についてみると、出生率は2.1ないと人口が維持できないと言われ
ているが、中標津町は1.63で年々下がっている。
- ・ 国勢調査時点の人口ピラミッドを見ると、子供を産む世代である20歳～40歳の女
性が2015年には2572人であるのに対して、2040年には、1445人まで減ってし
まう。今と同じだけ子どもの数を維持するとすると、単純計算で、1人3人くらい
産むという数字になってしまう。
- ・ 中標津町の有配偶率も年々下がってきている。
- ・ 根室管内の人口も、2045年には3万人が減少して約6割になってしまう。
- ・ 人口が減少するということは、施設需要も減り、サービスが減り、企業の経営が悪
化して撤退し、所得も減少し、家計所得も減少し、雇用がなくなり、さらに人口が
減少するという縮小のスパイラルに陥ってしまう。
- ・ 人口10万人以上の都市を中核とした半径50kmの範囲を示した。中標津町はどう
考えていかなくてはいけないかを念頭に置いて話をさせていただければと思う。



図 2-2 話題提供（中標津町）の様子

都市計画マスタープランの見直しと街づくり協議会の取り組みについて

中標津町建設水道部都市住宅課

1 都市計画法（昭和43年 法律第百号）

都市計画法第2条【基本理念】

都市計画は、農林漁業との健全な調和を図りつつ、健康で文化的な都市生活及び、機能的な都市活動を確保すべきこと、並びにこのためには適正な制限のもとに土地の合理的な利用が図られるべきことを基本理念として定めるものとする。

2 都市計画とは

住民が快適で便利な生活を送るためには、土地の使い方や建物の建て方に共通のルールを定め、守っていくことが必要となります。また、都市で生活する上で「道路」「公園」「下水道」など都市基盤として欠かせない公共施設はあらかじめ整備計画を立てることが必要です。

都市の将来あるべき姿（人口、土地利用、主要施設）を想定し、そのために必要な規制・誘導・整備を行い、都市を適正に発展させようとする方法や手段が「都市計画」です。

3 道内の都市計画区域の指定状況

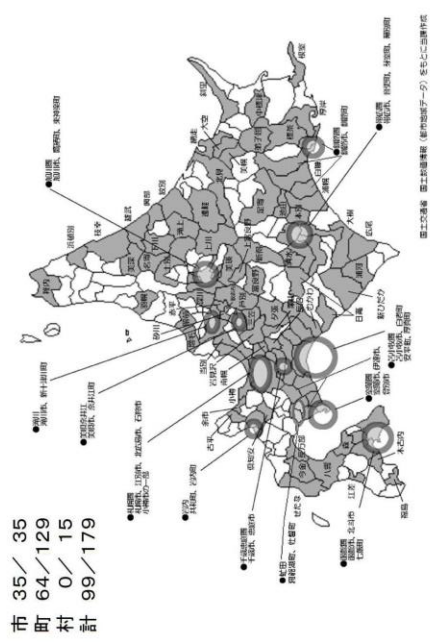


図 2-3 話題提供資料（中標津町）（1/11）

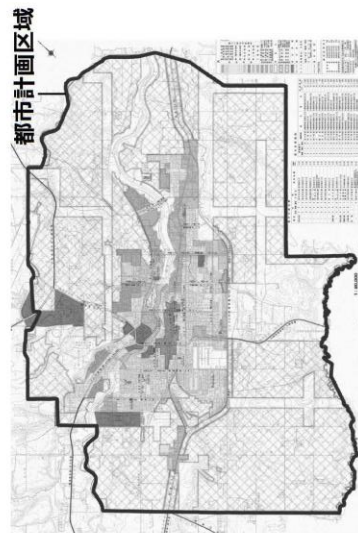
4 都市計画区域（都市計画法第5条）

都市計画を決めるにあたっては「都市」の範囲を明らかにしなければなりません。そこで市街地から郊外の農地や山林に至るまで、人や物の動き、都市の発展を見通し、地形などからみて、一体の都市として捉える必要がある区域を「都市計画区域」として都道府県が指定します。

都市計画と機能的な都市活動を確保するために都市計画法の規制を受ける土地の範囲。

5 中標津町の都市計画区域

昭和50年指定（中標津市街地周辺：面積4,441ha）



6 都市計画の概要

都市計画



7-1 都市計画（土地利用）

用途地域
(13種類)
↓
中標津町
では9種類

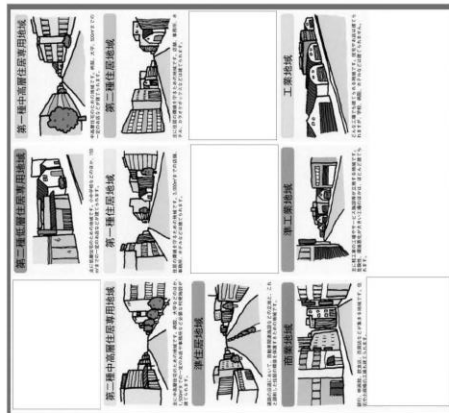


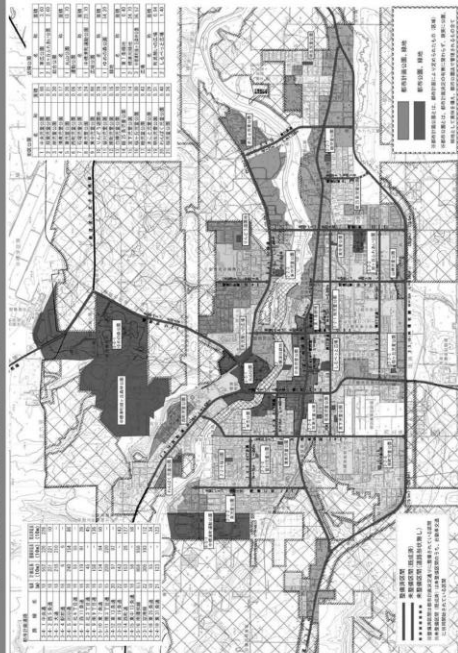
図 2-4 話題提供資料（中標津町）（2/11）

7-2 都市計画（都市施設）

都市に必要な都市施設（都市計画法第11条）

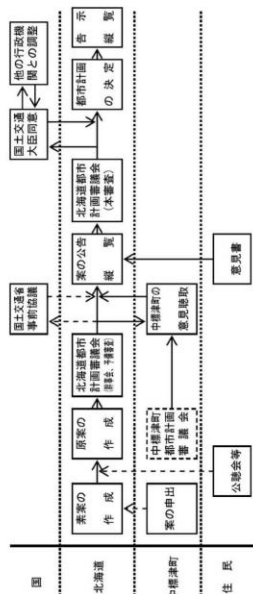
1. 都市計画道路（総延長：38.6km）
19路線（国道1、道道6、町道12）
2. 都市計画公園（面積：125.6ha）
街区公園9、近隣公園2、総合公園1、
運動公園1、広域公園1、緑地2
3. 下水道（処理区域：887ha）

7-3 都市施設図（道路、公園）



8 都市計画決定のしくみ

都市計画には様々な内容があり、一定の手続きを定めることを「都市計画決定」といいます。



9 都市計画制度の構造

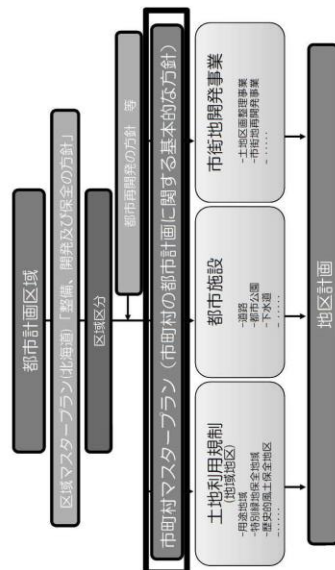


図 2-5 話題提供資料（中標津町）（3/11）

10 市町村マスタープラン

住民に最も近い立場にある市町村が、創意工夫のもとに住民の意見を反映し、まちづくりの具体性のあるビジョンを確立し、地区別のあるべき「まち」の姿を定めるもの。

中標津町では平成13年度に「中標津町都市計画マスタープラン」を策定
平成23年度に中間見直しを実施

13

11 都市計画マスタープランの役割

「暮らしやすいまちづくりのための設計図」

- ① 将来都市像の明示
「こんなまちにしたい」という目標や将来像を示し、町民と行政が共有する
- ② 総合的な都市計画の指針
都市計画や都市づくりに関する各行政計画や事業計画の基本的かつ総合的な指針
- ③ 独自性を発揮した都市づくり
土地利用や道路・公園・市街地再開発事業等の都市計画に反映できる
- ④ 地域協働の促進
町民と行政との協働によって、次の世代に継ぐ住みよい都市づくりを進めるための指針

16

12 現行の都市計画マスタープラン

Q 今の計画にはどんなことが書いてあるの？

将来都市像

環境首都 なかしべつ

全体構想

ミレニアムプラン

超長期構想

夢実現化構想

中期構想

総合計画運動構想

1000年

100年

10年

次世代の子供たちに伝えていきたいもの！

今すぐには無理でも、豊かな暮らしを実現しよう！

生活実感に基づきまちづくり！

都市整備の方針

土地利用、道路・交通、水と緑 など

地域別の街づくり構想

● 身近な地域の街づくりにみなさんが関わるための構想

13 地域別街づくり構想

地域町民が自らかかわる身近な街づくり

16

図 2-6 話題提供資料（中標津町）（4/11）

11

②公共交通ネットワークの充実

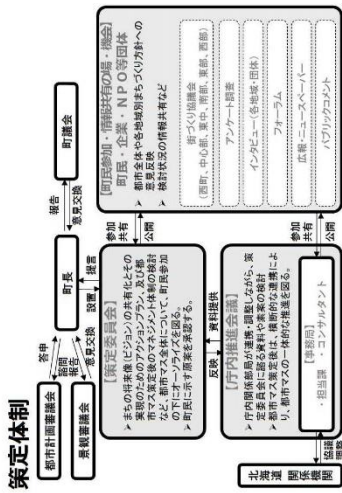
・西部地域 ～ 「緑豊かな環境のなかで健康に暮らせるまちづくり」

16-3 街づくり協議会の取り組み

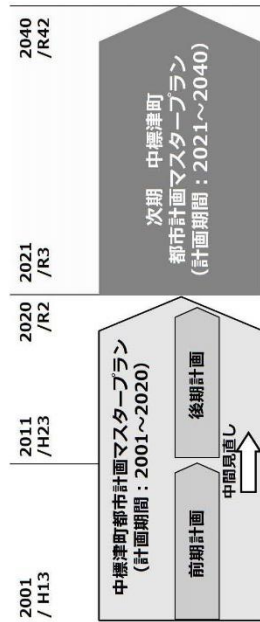
西町川西街づくり協議会



18 見直しの進め方



17 都市マスの計画期間



19 都市計画マスタープラン策定委員会

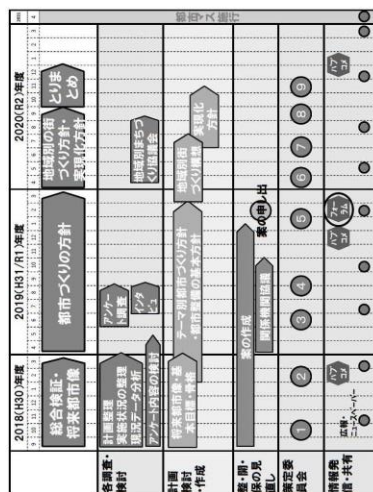
委員會構成

学識経験者、町内各団体
(商工会、建設業協会、建
築士会、JA、JC、飲食業連
合会、NPO、全町会連合
会、計根別町内連合会)街
づくり協議会、景観審議
会、一般公募(3名)、役
場部長職による全22名で
構成



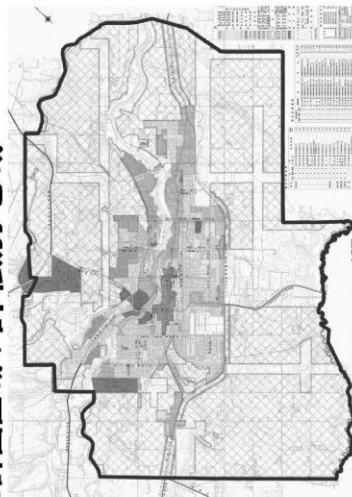
図 2-8 話題提供資料（中標津町）（6/11）

20 策定スケジュール



21 新・都市マスの対象区域

Q 都市マスの対象は？ 都市計画区域 + 計根別地域



22 見直しの進め方



23 対話の場

Q 対話の場ってなに？

相手の意見を尊重し、相手の立場に立つて、新たな解決策を導く話し合い

多様な意見 参加による気付き 人のつながり 次へのアクション

対話

視察(6月) 牧之原市&掛川市

対話

生涯学習

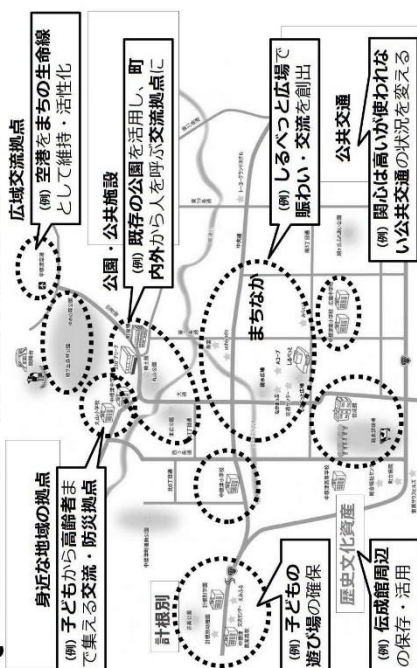
● 市民が主体のまちづくりを進める先進地を視察

● “対話”を重ねること、“ひとつ”に取り組むことの大切さを学ぶ

図 2-9 話題提供資料（中標津町）（7/11）

24 対話の場が出た意見

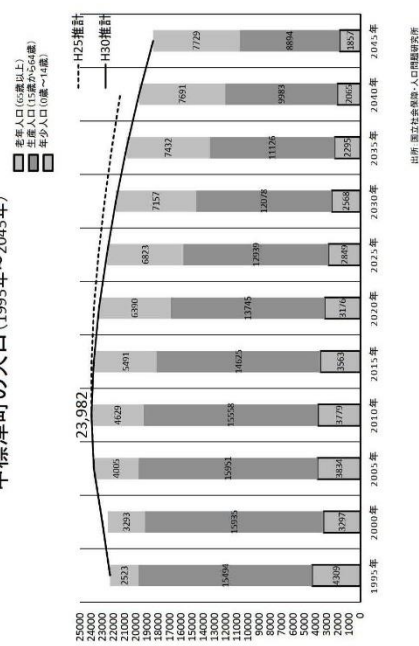
Q どんなアイデアが出てきたの？



参考資料

参考資料 1

中標津町の人口 (1995年～2045年)



今日のフォーラムをはじめ
"対話の場"を重ねながら、
中標津町の
ひとづくり・まちづくり
を進めていきましょう

来年度は、地域別街づくり構想を検討します！

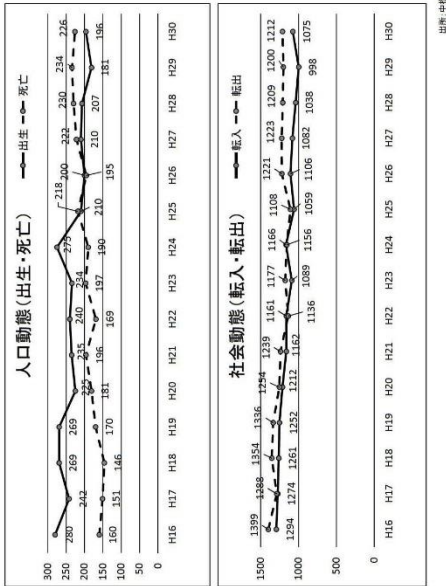
情報は都市マス通信のほか、町のホームページ・
Facebookページで発信しています！



町ホームページ Facebookページ

図 2-10 話題提供資料 (中標津町) (8/11)

参考資料 2



参考資料 3

中標津町の人口推計(まとめ)

	総人口	高齢者人口	生産年齢人口
2015年	23,774人	5,506人(23.2%)	14,702人(61.8%)
2045年	18,480人 5,294人減	7,729人(41.8%) 2,223人増	8,894人(48.1%) 5,808人減

労働人口が減少するということは税収が減り行政運営に必要な財源確保が困難になる。
さらに高齢者が増えると医療費の増、要介護者の増、それに対する財源(国保・介護・後期)が不足する。
医療・社会福祉費の予算を増額すると、他の予算を削減しなければならなくなる。

参考資料 4

合計特殊出生率

全国 1.38 全道 1.25 中標津町は1.63

根室管内

根室市1.53 別海町1.86 標津町1.42 羅臼町1.72

出生率は「2.1」ないと人口が維持できない。
「女性」がいないと子供を産むことができない。

出典: 中標津町まち・ひと・しごと創生総合戦略 (H28.1)

参考資料 5

中標津町の合計特殊出生率と出生数

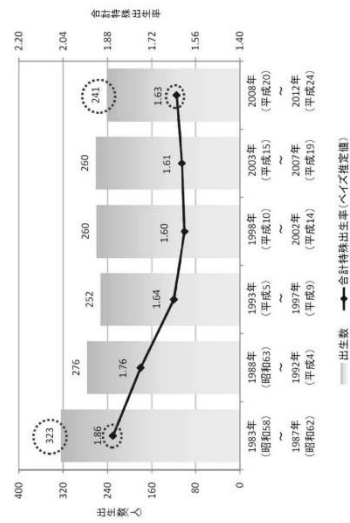
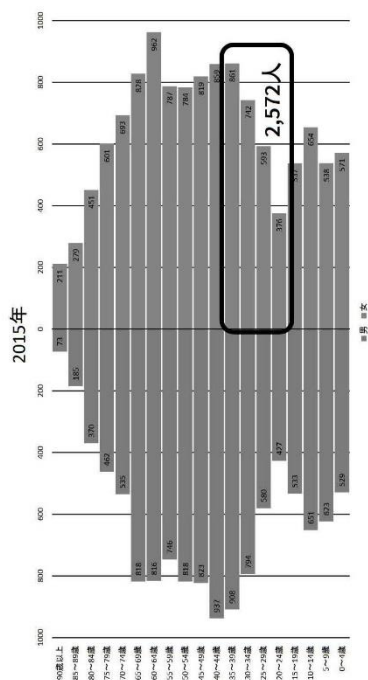


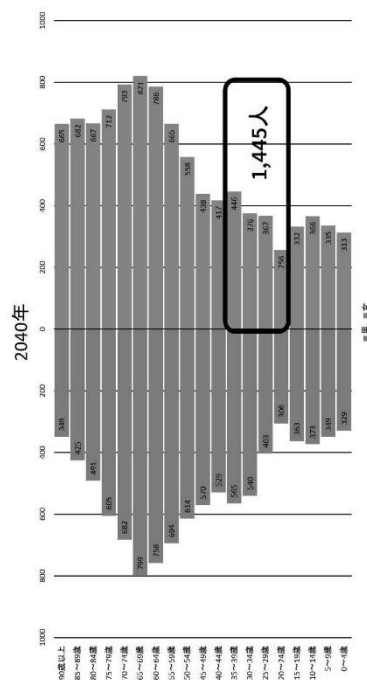
図 2-11 話題提供資料 (中標津町) (9/11)

参考資料 6



出所 国立社会政策・人口問題研究所

参考資料 7



出所 国立社会政策・人口問題研究所

参考資料 8

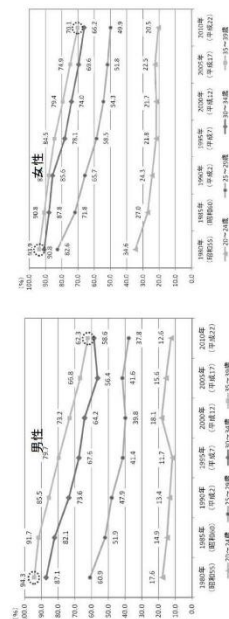
人口を維持するための出生率(単純試算)

親になる世代の数 × 出生率 = 子供の数
(概ね20歳以上～40歳未満の女性と仮定)

【現状】2015年
2,572人 × 1.63 = 4,192人
【将来】2040年
1,445人 × 2.90 = 4,192人

参考資料 9

中標津町の有配偶率の推移



出典：中標津町まち・ひとしとこ創生総合戦略（H28.1）

図 2-12 話題提供資料（中標津町）（10/11）

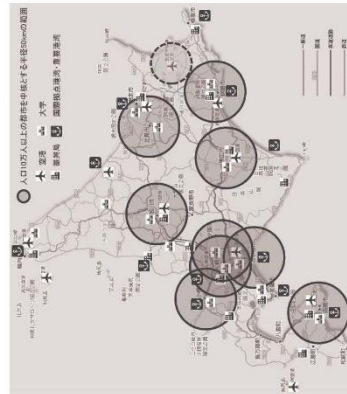
參考資料12

約3万人減少
管内人口は
約6割に減少



參考資料13

人口10万人以上の都市と圏域



(2) 【講演】掛川市の「まちづくり」について ～市民力によるまちづくり～

掛川市協働環境部部長 栗田 一吉氏

- ・ 静岡県は雪が全く降らないところ。雪を見るときはしゃいでしまう県民性がある。これだけ厳しい中で、自然と調和しながらまちづくりを考えていらっしゃるところに感銘を受けている。
- ・ 掛川市の面積は 265.69 km² と、静岡県の中では比較的大きいほうで、もともと 1 市 2 町が平成 17 年に合併して誕生したまちである。小学校が 22 校、中学校が 9 校あるが、小学校が村単位にあるとすれば、そのような数の集落からなっている。中標津町は街としての居住エリアはコンパクトになっているが、掛川市はうっすらと広がっているような状況である。
- ・ 人口が 11 万 7 千人で、外国人が 5% くらいでブラジル人が多い。外国人との共生も課題となっていて、今困っているのは学校現場で言葉が通じないことである。
- ・ 財政規模は 458 億円で、協働環境部は 4 つの課からなっており、うち 37 億円（8% 弱）を占めている。
- ・ 掛川市は、地形として東京・大阪・名古屋の中心にあり、新幹線など東西の動線があるため、物流のほか、映画のロケでもよく使われる。
- ・ 掛川市のまちづくりについて 3 つのステージに分けて説明する。江戸・明治の報徳の時代、昭和の生涯学習のまちづくりを経て、現在の協働のまちづくりに移ってきた。
- ・ 二宮金次郎の像は、戦後の批判の中で撤去されたりしたこともあったが、掛川市では現在すべての小中学校に像がある。
- ・ もともと二宮金次郎は小田原であるが、掛川市の豪農である岡田氏が二宮金次郎の弟子から教育を受けてその考えを広めて、大日本報徳社を設立した。
- ・ 本社正門には「道徳門」と「経済門」があり、「経済無き道徳は寝言であり、道徳無き経済は犯罪である」という言葉が刻まれている。来年 1 万円札になる渋沢栄一さんの「論語とそろばん」にもその考え方が表れている。
- ・ 報徳仕法の考えとして、至誠、勤労、分度、推譲というのがあり、誠を尽くして一生懸命働き、己の分を知って贅沢を慎み、残った余剰を人に譲るとというのが教えである。そういった考え方からなるものに信用金庫があるが、日本最古の信用金庫は掛川信用金庫である。
- ・ 第 2 期は昭和になって榛村市政が始まり、昭和 54 年に全国初の生涯学習都市宣言をした。学ぶことは学校だけではなく、生涯学び続けてその成果をまちづくりで恩返しするという、報徳の精神をより具体的に示したものである。
- ・ 新幹線が横切っているだけであったが、駅を作って電車を止めて有益なものにしようという動きがあり、掛川駅が出来上がった。総事業の 100 億円のうち 30 億円は市民の募金によるものである。掛川市では、報徳思想という独自の文化の中で市民力を使ってまちづくりを進めてきた。

- ・ 現在は市民協働の時代に入った。行政が旗を振ってみんなついて来いという時代から、市民が主体となって行政が後ろから背中を押すようであれば成り立たない時代となった。
- ・ 行政側も、人口減少による財政減でお金の面でも厳しくなっている。
- ・ 地域の課題に一番詳しい地域の人が、知恵を絞ってまちづくりに取り組むほうがより建設的で役立つものになる。
- ・ 現在、協働のまちづくりを始めて5年目で、市では自治基本条例を制定し、市内に31のまちづくり協議会がある。地域に必要なことを地域でやってもらい、それを行政が支えている。
- ・ 健康で幸せに生きていくために、複数の社会福祉協議会や市の福祉部門などが一体となった場所を市内5か所に作って、相談業務などを行っている。
- ・ 地域で車を協働で走らせて、地域の困っている方を運ぶ仕組みを作り、市内5か所で実施されている。例えば、公共交通の空白地帯である中地区では、事前予約してもらって、病院や買い物に送る支援を地域自らが行っている。
- ・ 防災についても、自助・共助・公助と言われるが、向こう三軒両隣のなしくみで顔が見える関係の中で情報を把握できていないと、結果的に行政が後から助けに行こうとしてもわからないのが現実である。
- ・ また、地域に戻ってきてもらうための働きかけとしてシティ・プロモーションにも力を入れている。
- ・ 令和時代のまちづくりへの課題としては、最近になってSDGsというものを聞いたことがあると思うが、色々なところで意識することが必要になっている。
- ・ 行財政改革による歳出削減に向けては、合併で風呂敷を広げた公共施設も、これから畳んで行かなくてはならない。年間の維持費が30億円足りない状況で、統廃合などにより公共施設の床面積を25%減らすことが必要になっている。
- ・ 脱炭素社会として、地域電力新会社を設立することになり、地域で再生可能エネルギーをベースに地産地消で生み出した利益を市民に還元するという仕組みを検討している。
- ・ 中標津町でも街づくり協議会の活動をしていくということなので、現在掛川市で問題となっていることについて説明する。
- ・ まちづくり協議会の人手が足りない。現在は70歳くらいまで現役で働いており、高齢となってから地区の役員をやるとするのは難しい。
- ・ 自治会長とまちづくり協議会の会長がいて重複もあるなど、2重構造になっており、地域自治組織の在り方を考えなくてはならない。
- ・ まちづくり協議会の事業として、イベントがひと段落したら、本来何をやらなくてはならないかを考えて動いてもらわないといけませんが、実際はやらなくてもいい事業をだらだらとやっているのを見直しの時期に来ている。
- ・ まちづくり協議会を進めていくには、事務長などの事務局体制や、自立できる仕組み作りが必要である。将来的にはNPOなどの法人格を得て市の補助金頼りではなくて、自分たちで活動できるようになっていくといい。

- ・ 現在のまちづくり協議会は、一つのまちくらいの大きさのところから、小さなところまで規模にでこぼこがある。集約して一緒にやったほうが、効率が良くなることもあるので、試行錯誤を繰り返している。



図 2-14 話題提供（掛川市）の様子

掛川市の「まちづくり」について ～ 市民力によるまちづくり ～

令和2年2月1日(土) 中標津町「まちづくりフォーラム」資料

掛川市協働環境部長 栗田一吉 kuri@city.kakegawa.shizuoka.jp

1 掛川市の概要

旧掛川市(1町6村→1町15村) : 昭和29(1954)年～平成16(2004)年
旧大東町(6村) : 昭和48(1973)年～平成16(2004)年
旧大須賀町(1町2村) : 昭和31(1956)年～平成16(2004)年

平成の大合併

全25町村
の集合体

新 掛川市(1市2町) : 平成17(2005)年～

☆人口 : 12万人弱

☆面積 : 265.69 km²

(東西約15km、南北約31km)

☆気候 : 年中温暖、降雪はまれ。

風が強い(遠州のからっ風)

☆地勢 : 東京・大阪圏の中間に位置。

新幹線・在来線・東名・新東

名・国1等が東西に走る。

☆工業製品出荷額 : 1.1兆円

(静岡県内6位 : ①静岡②浜松

③磐田④湖西⑤富士)

☆主要企業 : ヤマハ(ピアノ)、資生堂、ユニチャーム、積水ハウス、NECプラットフォームズ[®] ほか

☆主要農産物 : 茶!! (深蒸し煎茶=全国茶品評会産地賞を3連覇、通算21回受賞)、メロン、イチゴ

☆主要観光施設 : 3つの城(掛川城、高天神城、横須賀城)、掛川祭、遠州横須賀三熊野神社例大祭、つま恋リゾート彩の郷、粟ヶ岳、掛川花鳥園、加茂荘花鳥園、3つのゴルフ場、サイクリングが盛ん 他



「仁藤の大獅子」9/28RWC 日本vsアイルランド戦に登場!

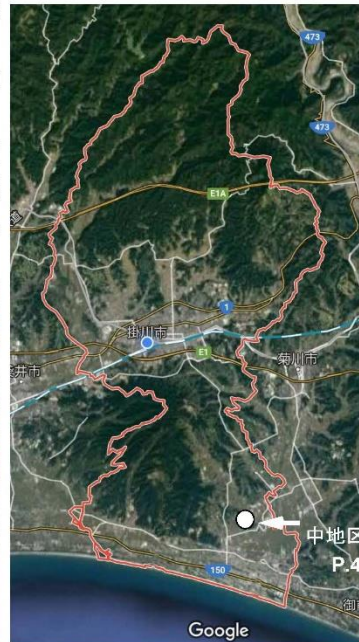


図 2-15 話題提供資料(掛川市) (1/11)

☆掛川映画等：「雨あがる」、「桜雷」、「小川の辺」、「二宮金次郎」、大河ドラマ「いだてん(第1話、第2話)」

※下町ロケットの「佃製作所」は、「桂川精螺製作所」の東京本社が舞台。現在、工場機能はその全部を掛川に移転済み。

☆掛川市出身・在住の著名人(一例)

- アスリート：山本 篤(パラ陸上 北京・財で銀：右下写真)、
山崎早紀(女子ソフトボール日本代表：所属)、
三木つばき(高1女子フリスビー)、
藤田寛之(プロゴルファー、元賞金王) ほか

※ R2(2020).6.24(水)：掛川市内で聖火リレー実施

○人間国宝：大角幸枝(鍛金)

○宮城まり子(ねむの木学園理事長)



2 掛川市の「まちづくり」の変遷

「報徳」→「生涯学習」→「協働」

(1) 「報徳思想・仕法」の時代

①報徳思想の伝播

二宮金次郎(天明7(1787)年～安政3(1856)年)の思想を学んだ岡田佐平治(文化9(1812)年～明治11(1878)年：掛川藩大庄屋)が、明治8年(1875)年に掛川の地で「遠江国報徳社」を設立し、その息子良一郎が「大日本報徳社」を設立して現在に至る。現在は、各地域・職域毎の単位報徳社を束ねる本社として「公益社団法人」となっている。なお、掛川市と北海道豊頃町は、「報徳つながり」と「互産互消」によるご縁での交流がある。

本社正門の門柱には、「経済門」、「道徳門」とそれぞれ刻まれており、『経済無き道徳は寝言であり、道徳無き経済は犯罪である。』と説く。私利私欲に走るのではなく、社会に貢献すればいずれ自らに還元されるという考え方。渋沢栄一の「論語とそろばん」も報徳思想の影響を受けている。ただし、あくまでも、理念に基づく経済活動等の実践団体であり、宗教団体ではない。



②「報徳仕法(理念の実践)」4つの柱

- 至誠：誠を尽くすという心の状態
- 勤労：一生懸命に働く等、至誠を行動で現した状態
- 分度：己の分を知り、贅沢を慎む
- 推譲：以上の3つの取り組みの結果、残った剰余を他に譲る
 - ・日本最古の信用金庫である掛川信用金庫(6/24から島田掛川信用金庫)は、報徳の相互扶助の精神に基づき創立された金融機関である。
 - ・北京大学、精華大学では超格差社会に対抗する理念として「報徳」が研究されている。

図 2-16 話題提供資料(掛川市) (2/11)

③歴代の大日本報徳社社長の系譜 ※（ ）内は、現役当時の役職等
岡田良一郎(衆議院議員：右写真)が「大日本報徳社」を設立し、初代社長となる。

その息子の岡田良平(京都帝国大学総長、文部大臣)と一木喜徳郎(文部大臣、内務大臣、宮内大臣、枢密院議長)兄弟が第2代・第3代社長をそれぞれ務める。第4代社長は河井彌八(侍従次長、参議院議長)、第5代は戸塚九一郎(労働大臣)、第6代は神谷慶治(東京大学農学部学部長)、第7代は榛村純一(市長退任後)、現行の第8代は鷺山恭彦(東京学芸大学学長)。



初代社長 岡田良一郎

※掛川市は、報徳以外の分野でも多くの偉人を輩出。社会科の副読本として学校教育の現場で活用されている。

一例 ★松本亀次郎：周恩来、魯迅等、近代中国を拓いた青年達の日本留学時代の師。

★吉岡彌生：東京女子医科大学の創始者

★山崎千三郎：初代掛川町長、現存する掛川のインフラの下地を創った人。

★山崎覚次郎：千三郎の甥。金融学者。帝大経済学部長。貨幣経済基礎理論構築。

関連・・・「松ヶ岡(旧山崎家住宅)」 →



明治天皇行在所「松ヶ岡」

(2)「生涯学習」の時代

榛村市政(昭和52(1977)年～平成16年(2004))：

7期27年間市長在職。H30没。

①全国初の生涯学習都市宣言(昭和54(1979)年)

学ぶことは、大学を卒業すれば終わりではない。一生涯学び続けて自己実現を図り、その成果を「まちづくり」等で恩返しするという考え方。＝「人づくり」。

・単位制市民大学「とはなにか学舎」の設立等



榛村純一氏(上)と開業日の一番列車(下)

②「向都離村」から「選択土着」とするための政策展開

◎新幹線掛川駅の建設(昭和63(1988)年3月13日開業)

負から正への一大転機

市民募金約30億円を結集！(総事業費約106億円)

※駅前広場等整備を含めると約120億円

負担内訳(億円)：県35、周辺市町17、掛川市54

・東部工業団地に11優良企業を誘致(H2)、東名掛川IC設置(H5)、掛川城天守閣木造復元(H6)、新市庁舎建設(H8)、中央図書館建設(H13) → 新東名開通(H24)



③土地区画整理事業による基盤整備の推進

・ハード面でのまちづくり手法。線的でない面的整備により都市基盤を整備。特に新幹線新駅開業時には、駅の南北両側で大規模な土地区画整理事業を展開。現在のホテル群等進出の下地を造った。しかし、バブル崩壊による地価下落後は、減歩率の大幅な上昇(土地を供出しても、もらえる土地がわずか)により、地方では事業スキームとして成立せず。

図 2-17 話題提供資料(掛川市) (3/11)

(3)「市民協働」の時代

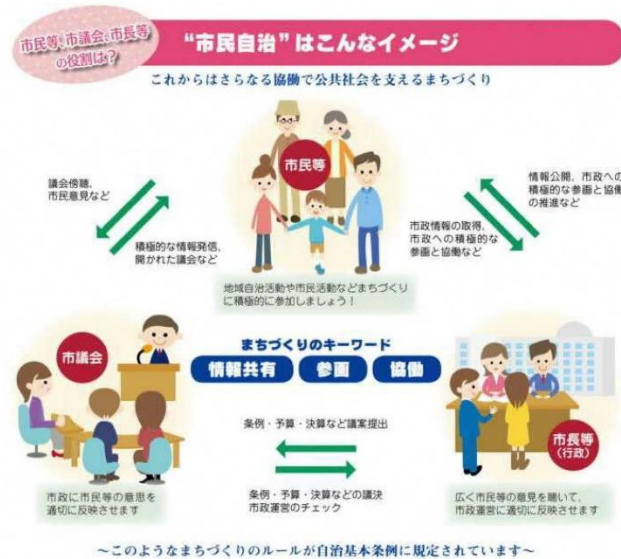
松井市政(平成 21(2009)年～)

平成の大合併から 4 年経過後、県議から市長に転身。現在 11 年日(3 期目)。

リーマンショック(2008)による
 税収減(△約 30 億円＝市税収入
 の約 1 割)等から、
 右肩下がり
 の時代への市政
 運営を余儀なく
 される。

加えて少子高
 齢社会・人口減
 少時代を迎え、
 従前のまちづく
 りとは一線を画
 す取り組みへと
 転換。道路や建
 物等を整備するハード事業重視から、市民の健康と生活を守るソフト事業重視へと舵を切った。

そういった中で、政策課題解決のための切り札として標榜したのが「市民自身が担い手となる市民自治の実現」＝「市民との協働によるまちづくり」である。



①自治基本条例の制定と地区まちづくり協議会の設置

○自治基本条例の制定(H25)

○常設型の住民投票条例を制定(H26)・・・地方都市としては、極めて珍しい！

○地区まちづくり協議会を市内全 31 地区で設立(H28)：「地域の問題は地域で解決！」

地域のドブ板的行政から、自主自立での地域の問題解決まで、市民が主体で取り組む。

【具体事例】公共交通空白地域における「足」の確保事例(H30(2018) 6.12 開始)

掛川市南部の大東地域、中地区において、まちづくり協議会が生活支援車を運行。免許証を返納したが、移動手段のない高齢者、直近のバス停まで遠い方、通院や買物で困っている方等に対し、生活支援車を運行。「市に何を頼むか？でなく、自分たちに何ができるか？」との思いからスタート。まずは H28 に住民アンケートから着手。国土交通省協議や地域内の交通事業者との調整、市の公共交通会議での承認等を経る。

原則として「白タク」行為は違法だが、道路



運行開始の様子(静岡新聞記事より)

運送法第 79 条の「自家用有償旅客運送」により、利用者から運賃をもらって、運転手に報酬を支払う仕組みとした。2 種免許は不要だが、運転手応募の 9 人が自動車学校で教習を受講。県内 4 例目。事前予約制。

車両は小型ワゴン車のダイハツ「トール」。車両費用の調達は、市からの交付金を活用したリース。年 36 万円×7 年間＝ 252 万円。

利用料金は行先と距離に応じて、200 円・400 円・600 円とした。

実績：登録制＝登録者 24 人／地区内高齢者 595 人／地区内人口 2,039 人

運行日数月平均 7 日 (18 便)。月平均約 20 人の利用。通院目的が全体の 2/3。

課題：利用者は徐々に増加傾向だが、更なる P R が必要。

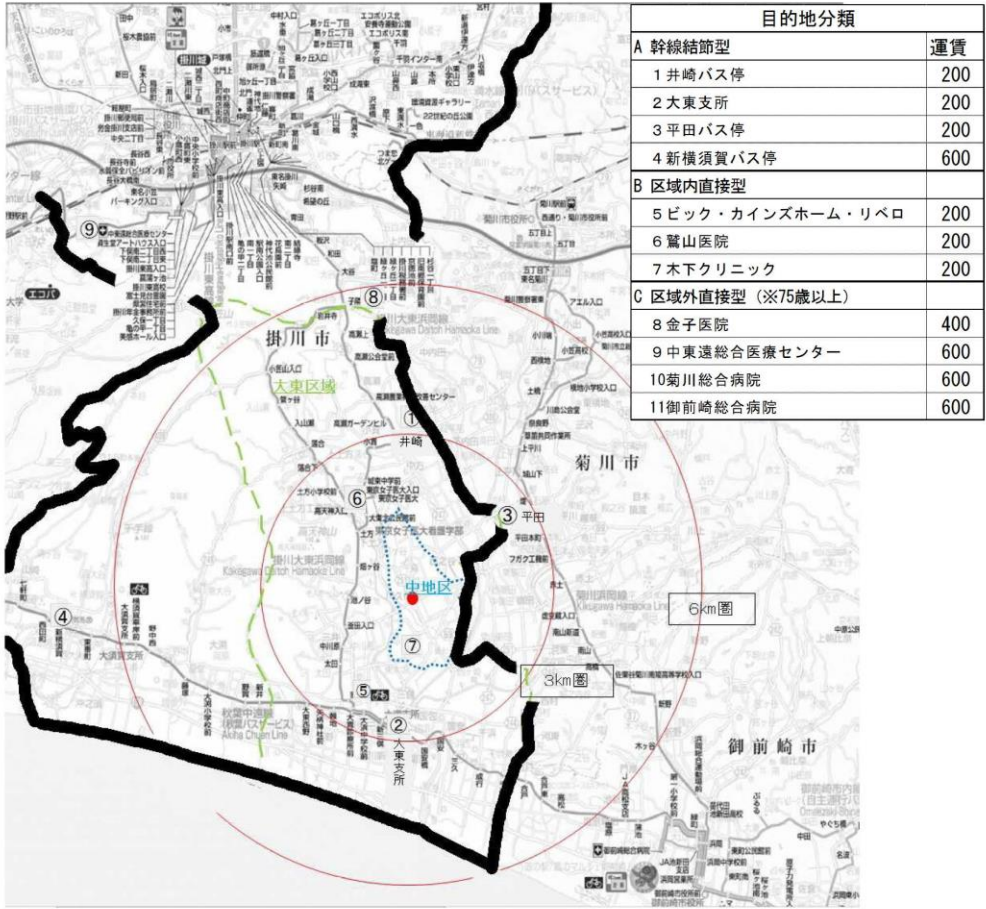


図 2-19 話題提供資料（掛川市）（5/11）

②市民の健康増進と幸福度を高める取り組み

○市内5箇所に「ふくしあ(掛川市地域健康医療支援センター)」を整備(H22～27)

住み慣れた地で安心して最期まで生活できるよう設置。在宅での医療・介護・生活・予防支援を推進。

各種相談
業務をワ
ンストッ
プ化(市
地域医療
推進課、
訪問看護
ステーシ
ョン、地
域包括ケ
アセンタ



一、社会福祉協議会が縦割りの壁を取り払って活動)

※ H28「第4回健康寿命を延ばそう！アワード」厚生労働大臣優秀賞受賞

○エンディングノートの全戸配布

終末期医療のあり方を市民自らが考える

※自治体の取り組みでは、大変珍しい

※「掛川市健康医療基本条例(H28)」
を議員発議により制定



②防災・減災対策の推進：「平成」＝「災害の時代」

○「自助」、「共助」、「公助」のうち「自助＝自分の命は自分で守る」を徹底

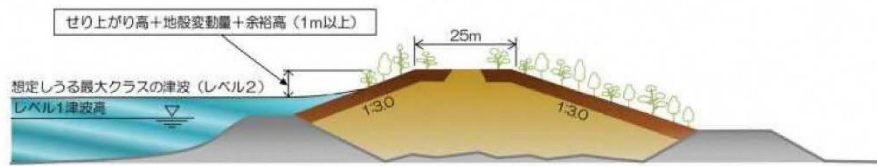
市長からは、家具の固定等、家庭内でできることの徹底を常日頃から呼びかけている。

◎日本初！「掛川市防災意識の高いまちづくりを推進する条例」を議員発議(H31年3月)で制定。

※「どんなに立派な防災施設を造っても、市民が日頃から高い防災意識を持って、避難行動等に移さなければ何にもならない。」というもの。具体的には、各種会合の冒頭で、地震が来た際の行動や非常口の位置等をアナウンスするという取り組み。

○東日本大震災以前は遠浅の遠州灘(掛川市分延長約10km)は、津波被害想定は無かった。「3.11」以降の見直しで、レベル2の最大津波高が8.3～13.2mと想定され、市は高さ15mの津波避難タワー建設や盛土による防潮堤を整備中。特に防潮堤については、「希望の森づくり」として、線的でない面的整備とし、防災面だけでなく市民の憩いの森としての利用や太平洋岸自転車道としての利用を想定。国(川の浚渫土提供)・県(苗木提供)・市(企画、施工)・市民&企業(植栽協力)との協働による取り組み。

図 2-20 話題提供資料(掛川市) (6/11)



○ H30.9.30 の台風 24 号による被害：強風による倒木、土砂崩れ等で送電線が切断。県西部地区で大規模停電が発生。掛川市も 7 割の世帯が、最長 5 日間にわたって停電を経験。今後の予防策として、普段からの樹木管理等、地元住民の対応、中部電力等との連携について協議中。

④シティ・プロモーションの強化・推進

- ・マスコットキャラ「茶のみや きんじろう(右図)」を公募
キャッチフレーズも。
- ・マスコミの協力により全国へ掛川市を P R。U I J ターンの促進につなげる。
- ・市民が住み続けるためのシビックプライドや地域愛の醸成
- ・2019 ラグビーW杯エコパ開催(4 試合：9/28 ～ 10/11)
掛川市からは日本戦で「仁藤の大獅子」が出演！
- ・大規模アートイベント「茶エンナーレ 2017」の開催。第 2 回 2020 年開催へ向けて。



⑤公共施設マネジメント(箱物等の統廃合)への着手 ～広げた風呂敷を畳むために

- ・合併により旧市町所有の箱物が過剰な状態となった。特に、旧大東町においては、原発立地交付金等により、地区集会所や防災センターといった類似の施設が同一地区に併存する形となっていた。
- ・合併から 15 年を迎え、ようやく施設の統廃合に着手することとなった。
- ・「総論賛成、各論反対」とならぬよう、市議会で特別委員会を設置してもらい、一緒に検討を重ねてきている。しかし、現実的な各論への対応は、相当な困難が予想される。

3 「令和」時代のまちづくりへの課題

(1)人口減少問題

- ・人口増加に資する施策の推進（企業誘致、子育て支援 等）
- ・U I J ターン者の受け入れ拡大 ・空き家・空き地対策
- ・シティ・プロモーション戦略
- ・全市計で 1 学年 1,000 人時代が終焉。H30 年度出生者数 901 名という現実。
- ・消滅自治体！？・・・ 対策を講じなければ、近い将来、顕在化する可能性は高い
- ・既に町村レベルではその兆候が現実化・・・例：議員報酬が低く、若手候補無く、無投票に。
- ・外国人の増大に伴う地域との軋轢増大（例：ゴミの出し方問題）

(2)人生 100 年時代と S D G s (Sustainable Development Goals：期間 2016 ～ 2030)

○掛川市では、今年度実施する総合計画の見直しの中で、これらの視点を盛り込んでゆく。

- ・「2007 年生まれの子ども半数は 107 歳まで生きる」というもの
- ・2015 年時点の日本国民の平均寿命 男：約 81 歳 女：約 87 歳
- ・寝たきり等にならない健康寿命を延ばすことの重要性
- ・リンダ グラットンほか共著「LIFE SHIFT」
 - 働き方の大変革 → 多様な価値観が混在化 → 現在の常識は常識でなくなる？
- ・SDGs = 持続可能な 17 のグローバル目標と 169 のターゲットからなる国連の開発目標
 - 「No one will be left behind = 誰一人取り残さない」という理念
 - 目標 1：貧困をなくす
 - 2：飢餓をゼロに
 - 3：人々に保健と福祉を
 - 4：質の高い教育をみんなに
 - 5：ジェンダーの平等
 - 6：安全な水とトイレを世界に
 - 7：エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
 - 8：働きがいも経済成長も
 - 9：産業と技術革新の基礎をつくろう
 - 10：人や国の不平等をなくそう
 - 11：住み続けられるまちづくりを
 - 12：つくる責任つかう責任
 - 13：気候変動に具体的な対策を
 - 14：海の豊かさを守ろう
 - 15：陸の豊かさを守ろう
 - 16：平和と公正をすべての人に
 - 17：パートナーシップで目標を達成しよう

(3) 急増する高齢者への対策

- ・寝たきり老人とならないように、健康寿命の延伸
- ・高齢者世帯の独居世帯の見守り対策
- ・高齢者ドライバーに起因する悲惨な事故の抑止・・・免許証の自主返納の推進
- ・一方で、田舎における自家用車は必要不可欠な移動手段。
- ・日常生活の足をどうやって確保するか？（公共交通の役割）
- ・営利企業であるバス会社は、儲からない路線は切り捨てる！

(4) 子育て支援施策の充実

- ・保育所の整備：待機児童ゼロを目指して
 - ※実際には、年々保育所への入所希望が増加傾向であり、今秋の保育無償化等の影響もあり、いくら整備しても保育所が足りない状況。同時に、保育士の確保も難しくなっている。
- ・学童保育所の整備：保育所の入所希望が多いことは、即ち小学校入学時において、学童保育の需要も同程度あるということ。現状の飽和状態の打開。どこに施設を整備するか？空き教室か？各校長は、放課後の学校施設利用については、校舎外なら良いが、校舎内の利用は嫌がる傾向あり。

- ・一方で、出生者数は減少しているという矛盾。5～10年後に、現役一生懸命に整備している保育所が無用の長物とならない工夫が必要。

(5) 益々硬直化する市の予算

- ・建設事業費の大幅な減少　＋　民生費等義務的経費の大幅な増加
- ・普通地方交付税における合併特例の終了

(6) 行財政改革による歳出削減：公共施設のマネジメント（統廃合）

- ・日々老朽化するインフラに必要な予算は年間70億円、一方で使える予算は40億円程度（差し引き30億円の不足！！）→ 箱物等の絶対数を絞り込む（統廃合、複数目的化）
- ・残すべきインフラ（道路、橋梁、箱物等）の長寿命化
- ・統廃合に向けて、「総論賛成、各論反対」とならない仕掛けづくりが必要

(7) 小中学校の一貫校化政策・・・統廃合

- ・人口に比べ小学校・中学校の数が多過ぎる！（現在：22小学校、9中学校）
小学校：600人超が3校、100人未満が3校　中学校：500人超が3校、100人未満1校
- ・1学年1クラスでクラス替えもできない学校が大半。しかし、現状では複式学級は無い。
- ・子ども達にとって、真にふさわしい教育環境を考えるべき時
- ・教員の確保が困難化！（成り手が無い上に、学校数が多過ぎる）
※小学校が村単位で存在した経緯あり。市域が広く通学可能範囲が限られ、統合が進まず。
- ・小中一貫校整備の動き：用地確保は？膨大な事業費確保は？スクールバスは？

(8) 市域を越えた自治体間協力の必要性

- ・現行の一部事務組合の枠組みの更なる拡大とスケールメリットの創出
 - ・ゴミ焼却場　・廃棄物処理場　・し尿処理場　・火葬場　・障害者入所施設
 - ・老人ホーム
- ※迷惑施設受け入れに際し、地元対策に多大なコストをこれまでに支出。

(9) 「協働のまちづくり」の更なる深化

- ・「協働のまちづくり」の担い手となる市内全31地区の「地区まちづくり協議会」が発足して満3年が経過。4年目を迎え、「ホップ」から「ステップ」への脱皮を目指す。
- ・「まちづくり協議会」や「自治会」の役員の成り手確保が喫緊の課題！

(10) 脱炭素社会の実現と「シュタット・ベルケ(STADT WERKE)」への取り組み

- ※直訳すると「シュタット＝町」、「ベルケ＝事業」の意味。
- ドイツにおいて、電気、ガス、水道、交通などの公共インフラを整備、運営する自治体所有の公営企業を指す。公共事業を総合的に運営することで、資金調達、顧客管理、技術等で相乗効果を生み出す狙いがある。
- 掛川市ではエネルギーの地産地消により、得られた利益を住民サービスに還元することを目指す。協議会を今年度中に立ち上げ、その2年後の業務開始を目指す（中日新聞の記事を参照）。

4 結びに・・・「地区まちづくり協議会」に関する課題のまとめ（再掲）

- 担い手の高齢化と人手不足！**：従前なら、60 代半ばで「諸先輩の次は自分の番だから仕方がない。お世話になった地元のために。」と言って地区の役員に就任していた方々が、労働力不足により 70 歳過ぎまで働くようになり、地区役員の更なる高齢化と担い手不足が顕在化している。
- まち協の会長さんと自治会長のどっちが偉いの？**：地域住民にとっては、まちづくり協議会会長と自治会長の 2 人が並列する形となる（実情は、同一人物が兼ねる地区と別々の人が就任している地区と半々程度）。その結果、例えば「入学式の席次は、どっちを上座にすればいいの？」といった声が聞かれる。行政としては、地域のことには口出しできないというスタンス。今後、そういった地域自治組織等の二重構造を是正し、住民にわかりやすい組織としていく必要がある。
- まち協の事業のシンプル化**：”まち協”が市内全 31 地区に設立され、活動を開始した平成 28 年度以降、市では各”まち協”が策定した事業計画に基づき予算要求のためのヒアリングを実施。各地区年 200 ～ 500 万円前後の補助金を 3 年間固定して給付し続ける旨を約束した。しかし、結果として予算消化のための、不要と思われる事業も行われている現状がある。今後は、事業の集約化、シンプル化により、住民にとって真に必要な事業への移行が必要。
- まち協の事務局体制の強化**：”まち協”の実務を担う事務長等の事務局体制の強化こそが必要！そのためには、単年で無く数年スパンで取り組んでいただける方の発掘やボランティアでなく、それなりの報酬を支給できる仕組みが必要。
- まち協の財務基盤の強化**：行政からの”補助金頼み”で無く、自らが収入を得て、それを人件費を含む活動資金へと循環させる足腰の強い財務基盤の構築が必要。しかしながら、現状は NPO であっても、持続的な取り組みが出来ているケースは稀であり、自立への道は険しい。
- まち協の適正な組織規模への誘導**：現状の”まち協”は”大規模なまち協”と”小規模なまち協”が混在。担い手不足を解消し、合理的な取り組みへとつなげるためには、小規模な組織は合併等により適正規模への誘導が必要。しかし、現実には、地域性の違い等から、分離するケースこそあれ、合併のケースはまだ無い。そこで令和 2 年度からの市長出席の地区集会の見直しでは、これまで全 31 の”まち協”について個別開催としていたものを、中学校区単位で半数に分け、半分は地区ごとの個別開催、残り半分は中学校区単位の合同開催とする予定。その意図は、自分の地域の外にも目を向けてもらうことで、同じ志を持つ”まち協”同士が手を取り合うきっかけとしたいというもの。

2-2-3 第2部 みんなで話そう！対話の場

(1) 対話の場の流れ

14：30 【全体】ワークショップの進め方の説明（5分）

- ・ 全体で、司会からワークショップの手順や対話のルールを説明する。

14：35 【グループ】共有（10分）

①自己紹介

- ・ グループごとに自己紹介をする

②ルールの再確認

- ・ グランドルールをしっかりと理解してもらう
 - その1 思いついたら言ってみる
 - その2 相手の話をよく聴く、否定せず受け止める
 - その3 対話を楽しむ&リラックス

③テーマの確認

- ・ テーマを理解してもらう
 - フォーラム全体のテーマ：中標津町を暮らしやすく素敵なまちにする
 - テーブル内での話し合いのテーマ：みなさんが想う「まちづくりのアイデア」を出す

14：45 【グループ】発散（15分）

①付箋による意見出し

- ・ 参加者が思っているまちづくりに対するアイデアを書き出す

②個人のアイデア発表

- ・ 1人1枚ずつマップに貼り発表する

15：00 【グループ】収束（20分）

①出された意見をみて気づいたり、アイデアを思いついたら発言してもらう

- ・ その場で意見が出るので、各テーブルにいる役場職員が付箋にメモをとり、貼り出して見える化すると共に記録に残るようにする。

②少しずつ意見を絞り込んでいく

- ・ 出たアイデアについて、グループ内の賛同を得て具体性を深掘りする

③良い意見が複数あった場合

- ・ 多数決やシール投票などで決める（シールは各テーブルに配布）

15：20 【グループ】決定（10分）

①発表者を確認

- ・ 盛り上がったアイデアを発表した人にしてもらうなど、グループ内で決定する

②これまで出た意見を再確認する

- ・ 貼り出された付箋を確認するなど、発表者をサポートする

15：30 【全体】マイクリレー（10分）

- ・ 盛り上がったアイデアについて、マイクリレー方式で、1グループ30秒で紹介する。

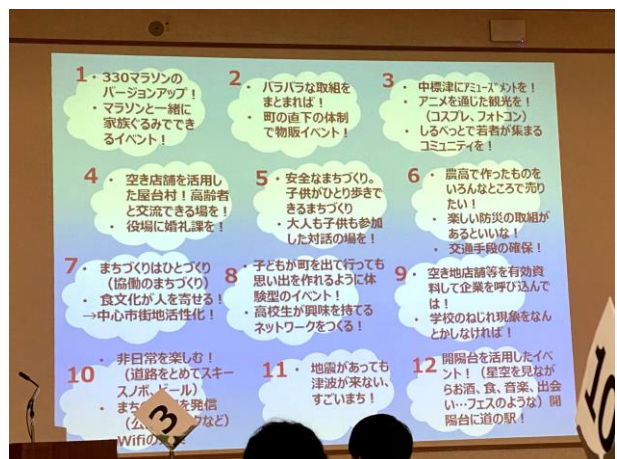


図 2-26 対話の場の様子

(2) グループ別の結果

① グループ 1

表 2-1 グループ 1 意見一覧

つぼ分類		付箋の内容
まちなか		日本語学校の生徒さん達とイベント
まちなか		まちなかに観光客、地元の人が集える場所をつくる
まちなか		街の駅（外国人も来る）空き家利用
まちなか		高齢者と子供が気軽に遊べる（？）場、歩いていける距離
まちなか		シルバー世代の力を借りて子育て
身近な地域の拠点		家庭菜園教室的なもの
身近な地域の拠点		教えてもらうお年寄り
公園・公共施設		330° マラソンを本州に宣伝
公園・公共施設		2.5 km ごとに特産品が置いてある（フルーツ）
公園・公共施設		コースの検討情報発信
公園・公共施設		端野カレーマラソン
公園・公共施設		別海はフルマラソン
公園・公共施設		丸山公園でお祭りも一緒に
公園・公共施設		開陽台へのアクセス、身障者への配慮
公共交通		免許返納した高齢者が外出できるように？？
公共交通		バスの利用券が欲しい、小さなバス
歴史文化資産（伝成館など）		歴史建造物の保存
その他	エネルギー	電力問題、ソーラー会社タイアップ（ブラックアウト）
その他	エネルギー	ブラックアウト（冬）だったら防災
その他	現状・特徴	少子化問題
その他	新規施設	南 1 号道路。農地を利用して道の駅を作る。
その他	しかけ	中標津に来たくなるイベント（他にはないもの）
その他	しかけ	ランチウェイコースにトイレ+休憩場
その他	医療	医大に入る人に援助費

② グループ2

表 2-2 グループ2意見一覧

つぼ分類		付箋の内容
まちなか		(昨年やってたけど) ushiyado でイベント (町でも宣伝)
まちなか		飲食店やお店のスタートアップをするような場所
まちなか		開業したくても家賃が高いのでなかなかスタートする勇気が出ない。補助金をもっとあれば。
まちなか		ハンドメイド販売 (詳しくは口頭で)
まちなか		ハンドメイドの人口が多い。管内からの問い合わせが多い。年齢が高くても作品を買ってもらえる場として、町主催として行えば、お年寄りでも生きがいにつながり良いのではない。イベントを組む、無料で場所を開放してくれれば
公園・公共施設		330° アリーナあるのに泊まるところがない。手軽にスポーツできる場所もあればいい。
公園・公共施設		郡部とか改装して (学校) プチ合宿とかでいる場所になれば、スポーツ人口が減っているが、練習終わって料理作って…そんなことができる場所があれば。
公園・公共施設		空いている学校を改装してプチ合宿所。少年団・部活、一般クラブチームなど利用
公園・公共施設		誰でも参加できるスポーツ大会
公園・公共施設		ワンプレートの料理を。中標津産 (農高とのつながりができればよい)
公園・公共施設		中標津産野菜を使ったカフェ/食堂/販売 (夏やってる)
歴史文化資産 (伝成館など)		郷土館での中標津を知るイベント歴史
広域交流拠点 (中標津空港など)		中標津のコトを知ってもらう場所をぐっと集めて1か所でイベントをやってもらえばよい。町民も。町外の人を呼ぶのにも知らなくて案内できない。ウシ宿とか良いところも知ってほしい。
その他	教育	職人のすごさを見てもらえる機会→下の人に継承していくことにつながる
その他	教育	町内の子供。高校を卒業しても残ってほしい。帰ってきてほしい。
その他	教育	子供達もどこかの段階で中標津を知る機会があれば、町内にとどまる
その他	教育	もっと全力投球するような子供たちを育てていってほしい。
その他	教育	働いている人たちのすごさを知ることができれば1回出てもまた戻ってくる選択肢になる
その他	教育	高校生の目的を持たない子たちにも、ベンチャー的な話を聞ける機会があったらよい。中標津で、たくさん頑張っている人がいるので、そういう人に話をきくのもよい。
その他	教育	中標津高校と農業高校との交流→活動を見れる機会がもっとあれば…→町内 (まちなか) なので少しはわかりやすいが…
その他	情報発信	町民に情報を落とし込むことで、若い人も町外に出て戻ってきてくれる。町内のイベントはいつもバラバラで統一感がない。
その他	情報発信	中標津でいろいろなことをやっている人がいるのに知らないことが多い。もったいない。そこそこの団体がそれぞれで動いている。
その他	情報発信	陶器等を作ったりしている活動をもっと町の人たちに
その他	新規施設	フレスポの向かい側の通りに更に商業施設を増やしてみる
その他	組織づくり	役場の部署にイベントを仕切る場所があると (町として活動) 組織があれば。 (例) 農高の食材でワンプレートでいくらかで売るか…勉強にもなる。
その他	組織づくり	役場の部署にイベントを仕切る部署があると、町主催のほうにまとまる→継続していきやすい
その他	組織づくり	趣味を持った人が、町作りにつながっていけるきっかけをつくる場
その他	組織づくり	調整する組織があればいい。イベント開催する。
その他	ネットワーク	バイパス上に施設が増えると周辺に混雑が考えられるため、道路の2車線化、中央分離帯等があるとよいのでは。
その他	ネットワーク	バイパス 272 号沿い、フレスポ中標津～ホクレンスタンド。何もない場所もあるがその辺も店が増えれば…交通量の問題もあるので道路の改良も必要になるのかな? 2車線の場所があってもいいか。



図 2-28 意見交換・発表（グループ2）の様子

③ グループ3

表 2-3 グループ3意見一覧

つば分類		付箋の内容
まちなか		しるべつとでカード交換会（第3日曜）
まちなか		家賃が高い。全体的に安くなる条例をつくる。
まちなか		ひきこもり対策にもなる
まちなか		アニメイトをつくる
まちなか		アニメコスプレフォトコンテスト。クテクトンの滝とか。
まちなか		出会いの場にもなるのでは？
まちなか		カードショップをつくる（まつうら商店）
身近な地域の拠点		東小のように、保護者だけでなく地域の人と一緒に町全体の見守りパトロール（子ども～高齢者まで）
公園・公共施設		開陽台へのアクセス
公園・公共施設		バンジージャンプ、330° 見渡せる。観光No.1
公園・公共施設		自然を活かしてプレーパークをつくる
公園・公共施設		町民ライザップ、町民専用トレーナー
公園・公共施設		バッティングセンターの修理
公園・公共施設		ゆめもりでサバゲー
広域交流拠点（中標津空港など）		空港からマリオカート、牛のモウモウカートを走らす
広域交流拠点（中標津空港など）		空港有効活用、都会大企業のインターシップで人口増加
その他	教育	中標津の未来のために意見したい。学校の先生に勧められた。
その他	教育	子育て（教育）に携わる側の働き方改革。
その他	教育	生涯教育の1つとして、子育て世代（保護者）の教育の場をつくる。
その他	教育	類似団体の合併。予算を浮かせて他にまわす。PTA
その他	教育	子育て教育の充実
その他	教育	町立である強みを活かして、製造（●●生産）～流通のすべてを学べる教育づくり。
その他	現状・特徴	自然豊かなまち。空港が強み。コンパクトシティ。
その他	現状・特徴	住みやすいまち。根室管内の拠点。
その他	しかけ	恋人・カップルの日をつくる。冬限定、夜10時以降。
その他	しかけ	ブラックアウト空がきれい。毎月まっくらの日、ロマンチックの日。
その他	しかけ	観光資源を増やす
その他	しかけ	見せることができる農業。農業を観光にしよう。
その他	しかけ	緑しかない。緑だけなら人は集まらない
その他	しかけ	アミューズメント構想
その他	情報発信	役場HPの充実。全然リアルタイムでないよ。
その他	情報発信	中標津（4町）町民ガイドマップをつくって町おこし☆アプリ
その他	組織づくり	（例）婚活課をつくる！！
その他	組織づくり	学生起業家の後押しができる企業・団体をつくる



図 2-29 意見交換・発表（グループ3）の様子

④ グループ4

表 2-4 グループ4 意見一覧

つば分類		付箋の内容
まちなか		町が場所を。起業のきっかけ。
まちなか		帯広の屋台村みたいな
まちなか		中心街空地で公設民営酒場を開いてほしい
まちなか		子供からご年配の方が一緒に交流（多世代交流）
まちなか		歴史を活かして新しいことを
まちなか		若者が遊ぶ場所つくること！！（Eスポーツ等）
まちなか		街の発展した通りに物語を
身近な地域の拠点		（少し個人的になるが）シニアが行くコーヒーカーフェが西町にあればいいな！
公園・公共施設		残したいエリア
公園・公共施設		大事にしたい身近な自然
公園・公共施設		オートキャンプ場グランピングがあるとベスト
公園・公共施設		公園の見直し
公共交通		町民用の温泉交通券をつくってほしい。町民の特権として。
歴史文化資産（伝成館など）		歴史の生き証人。守り活用したい。
歴史文化資産（伝成館など）		中標津町の歴史にストーリー性をつくる
広域交流拠点（中標津空港など）		北方四島の空路をつくる。四島のロシア人との交流。
計根別		空き店舗を活用し、コミュニケーションの場をつくる
計根別		子供が外で遊べる場所をつくる
その他	教育	子供たちの教育環境を改善！！
その他	教育	学校や園の各教室にエアコン設置を希望
その他	情報発信	中標津の色々なことを簡単に知ることのできる資料が欲しい
その他	新規施設	素敵なか標津の特色を活かした結婚式できる式場（教会）が欲しい。
その他	新規施設	若い人たちが喜んでくれるような教会
その他	組織づくり	役場に「婚礼課」を設置してほしい
その他	組織づくり	結婚をサポート。意識の向上を。
その他	組織づくり	町内会の加入率がすごく低下しているが、町づくりの観点からこれでいいかの思い。

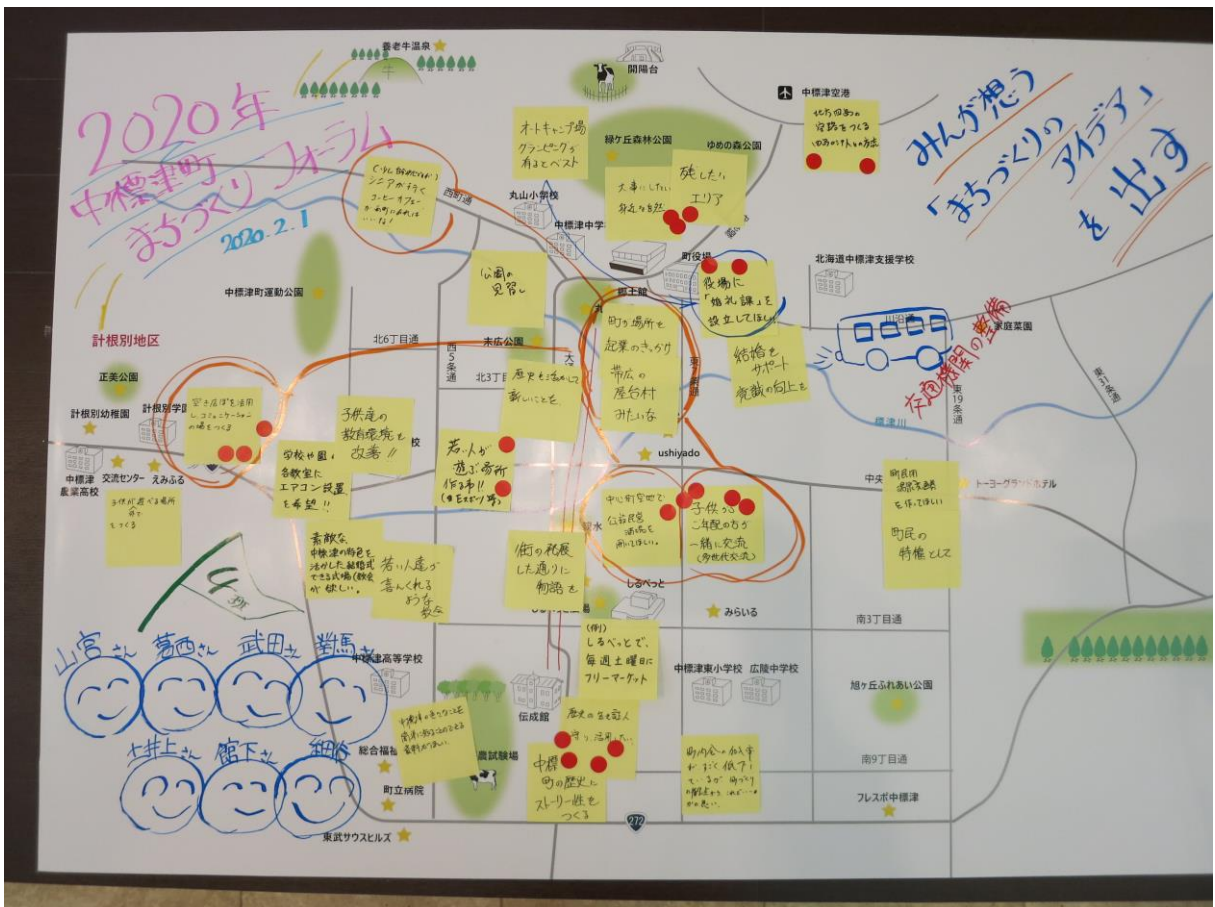


図 2-30 意見交換・発表（グループ4）の様子

⑤ グループ5

表 2-5 グループ5意見一覧

つば分類		付箋の内容
まちなか		町民活動センターをつくりたい
まちなか		歩行者がいない。公園に人がいない。見守れない。
まちなか		ソフト面で希薄な関係性になっている
まちなか		安全な街づくり→子供のひとり歩きOK
まちなか		公共施設の統廃合を町民と考える。
まちなか		便利なところへあぐらをかいている
まちなか		不審者になっちゃう。声をかけられない。
まちなか		対話の場づくり「大人も子供も」
まちなか		もっと町民に知られるとよいよね！
まちなか		(シャトルバス) 飲み屋街から遠い場所への利便性UP
まちなか		町中で乳製品やジャガイモを使った料理を「作る」会を行う
まちなか		病院の屋上に展望台をつくる→北方領土を含め360°をみれる
身近な地域の拠点		小中高生と住民との交流。世代間の交流。計根別ではできている。
公園・公共施設		サッカー・ラグビー、プロのスポーツ
公園・公共施設		カメラ好きな方を呼ぶ。地元には写真家がたくさんいるみたい
公園・公共施設		カメラマンツアーを考える(道内・道外)
公園・公共施設		森林公園・ゆめの森公園もっと運動させる
公園・公共施設		①標津川沿いのジョギングコースの整備②公園と博物館
公園・公共施設		丸山公園を活用した世代間交流はできないか？森林公園もフィールドに！
公園・公共施設		鴨の写真を撮ってる人がいる。魅力的！
公共交通		デマンド型交通機関を→子供・老人に自由を！！
公共交通		町営バスを見直したい
公共交通		自動運転の早期導入
歴史文化資産(伝成館など)		タワラマップ川を活用して、流域の探索・自然観察等歴史と現在を学ぶこと等
歴史文化資産(伝成館など)		旧農事試験場の施設・敷地を活用して展示スペース・学習の場・いこいの場に
歴史文化資産(伝成館など)		中標津町立博物館にしたい「根釧開拓博物館」
広域交流拠点(中標津空港など)		空港を遊びに行く場所にする
広域交流拠点(中標津空港など)		丘珠便への定期便
広域交流拠点(中標津空港など)		役場に熱心な人をつくる
広域交流拠点(中標津空港など)		丘珠はJAL！！
計根別		子供から年配の方まで集える場所づくり
その他	医療	医療従事者向け移住促進プラン
その他	情報発信	発信がヘタ(内気なの)
その他	ネットワーク	自転車専用道路の作成。旧標津線跡地



図 2-31 意見交換・発表（グループ5）の様子

⑥ グループ6

表 2-6 グループ6意見一覧

つば分類		付箋の内容
まちなか		一条通り、つり橋
まちなか		空き店舗を利用した高校生カフェの運営
まちなか		中央市街地の活性化、空き店舗、いろんな場所
まちなか		高齢者居住区、小売業店（市街地）
まちなか		連続でイベント（例）朝市
まちなか		まちなか。まつりのにぎわいを。連続。クセをつける。
まちなか		親水広場。まわりからもっと見えやすい形でもっと水に親しめるのがいいなー。
身近な地域の拠点		子供の昔遊びスペース。スマホ・タブ●●
身近な地域の拠点		世代間交流
身近な地域の拠点		向こう三軒両隣のつき合い
身近な地域の拠点		茶話会しながら楽しい防災気持ちと和らぐ
身近な地域の拠点		避難した時のもいづもの感じ。やわらかい
身近な地域の拠点		楽しい防災、避難練習、お茶会に集まる感じで顔を合わせる
身近な地域の拠点		高齢者の居場所（少し広いところ）
身近な地域の拠点		道の駅、カフェ、子ども食堂、むかし遊び、間違いの多いレストランカフェ、ウェイター、ウェイトレスが子供、高齢者（認知症）これらを施設含めれば交流が生まれる。通年日曜日・日替わり、季節ごと、年1回…
身近な地域の拠点		学校に多世代交流時間とスペース
身近な地域の拠点		子供と大人をつなぐイベント（大人ってカッコイイ）
公園・公共施設		開陽台道の駅
公園・公共施設		丸山公園利用はじの駅
公共交通		掛川の足の確保いいね！！高齢者共生、小さいバス。
公共交通		バスの便数
公共交通		小さいバス。路線増。
歴史文化資産（伝成館など）		文化財でCaffe
歴史文化資産（伝成館など）		伝成館。中標津町の原点をわかってもらうため。
歴史文化資産（伝成館など）		まちづくりの拠点
歴史文化資産（伝成館など）		博物館
広域交流拠点（中標津空港など）		空港の活用（滞在できる空間づくり）イベント
広域交流拠点（中標津空港など）		観光の案内所（観光協会）
広域交流拠点（中標津空港など）		観光の交差点。道の駅観光協会
計根別		農高の作ったものをあちこちで販売したい！ほしい！
計根別		一極集中の縮図、中心部だけでなく計根別でやったら？
計根別		この10年の農高すごい！×2
計根別		農高地場産業の振興
その他	エネルギー	太陽光パネルの目隠し
その他	教育	まちづくりのスタートからちがう。報徳
その他	教育	学校統合。全体が体なら血管が流れていない。
その他	現状・特徴	隣の人誰。住んでいてもわからない
その他	現状・特徴	家を感じない
その他	しかけ	物からスタート気持ちばらけちゃう
その他	しかけ	自然に人間の営みは作られていく
その他	しかけ	民間の活力！
その他	新規施設	道の駅（案）。トイレ・販売・情報
その他	新規施設	道の駅
その他	組織づくり	大人も子供も町民ファシテータを増やす
その他	組織づくり	住民主導まちづくり
その他	ネットワーク	ナカマップ、丸山公園、町民の森（散策路）



図 2-32 意見交換・発表（グループ6）の様子

⑦ グループ7

表 2-7 グループ7意見一覧

つば分類		付箋の内容
まちなか		中心市街地歩く人が少ない
まちなか		起業者の誘致
その他	教育	子供たちの可能性に対する投資は際限なく！
その他	しかけ	食文化は人を寄せる
その他	しかけ	若い人が働ける場所が少ない。大学が必要。
その他	しかけ	子育て世代の働き場をつくる（環境をつくる）
その他	しかけ	外国人との交流の場
その他	組織づくり	町作りは人作り
その他	組織づくり	行政と町民の連携
その他	組織づくり	コミュニティスクール→町内会加入率へ
その他	ネットワーク	道路の除雪スペースがない。多く降ると片側通行。拡幅が必要。



図 2-33 意見交換・発表（グループ7）の様子

⑧ グループ 8

表 2-8 グループ 8 意見一覧

つば分類		付箋の内容
まちなか		高校生の遊び場
公園・公共施設		桜がキレイ 森林公園
公園・公共施設		星空がキレイ
公園・公共施設		子供の遊べるところ。ゆめもり
公園・公共施設		森林公園の整備
公園・公共施設		末広公園。子供が遊べるところ
公園・公共施設		子供が健全に遊べる場所が欲しい
公共交通		観光できる巡回バス
その他	情報発信	FB, SNS でのコミュニティ
その他	情報発信	特産品をもっと押す！
その他	情報発信	特産品をもっと押す！目に見えるように！！
その他	教育	親が安心して送り出せる場所。
その他	現状・特徴	人と人とのキョリが近い、あたたかい
その他	現状・特徴	自然
その他	しかけ	子供が作ったものがある。おまつりなど。
その他	しかけ	ハロウィン
その他	しかけ	高校生と小さい子が一緒に遊ぶ
その他	しかけ	季節を感じられるイベント
その他	しかけ	1 人ではいけないけど、誰かと一緒なら！つながり
その他	しかけ	あるものを活用！横のつながり
その他	しかけ	思い出をつくる。盆踊りなど。
その他	しかけ	友人と集まれる機会を増やす→愛着がわく。
その他	ネットワーク	サイクリングロード

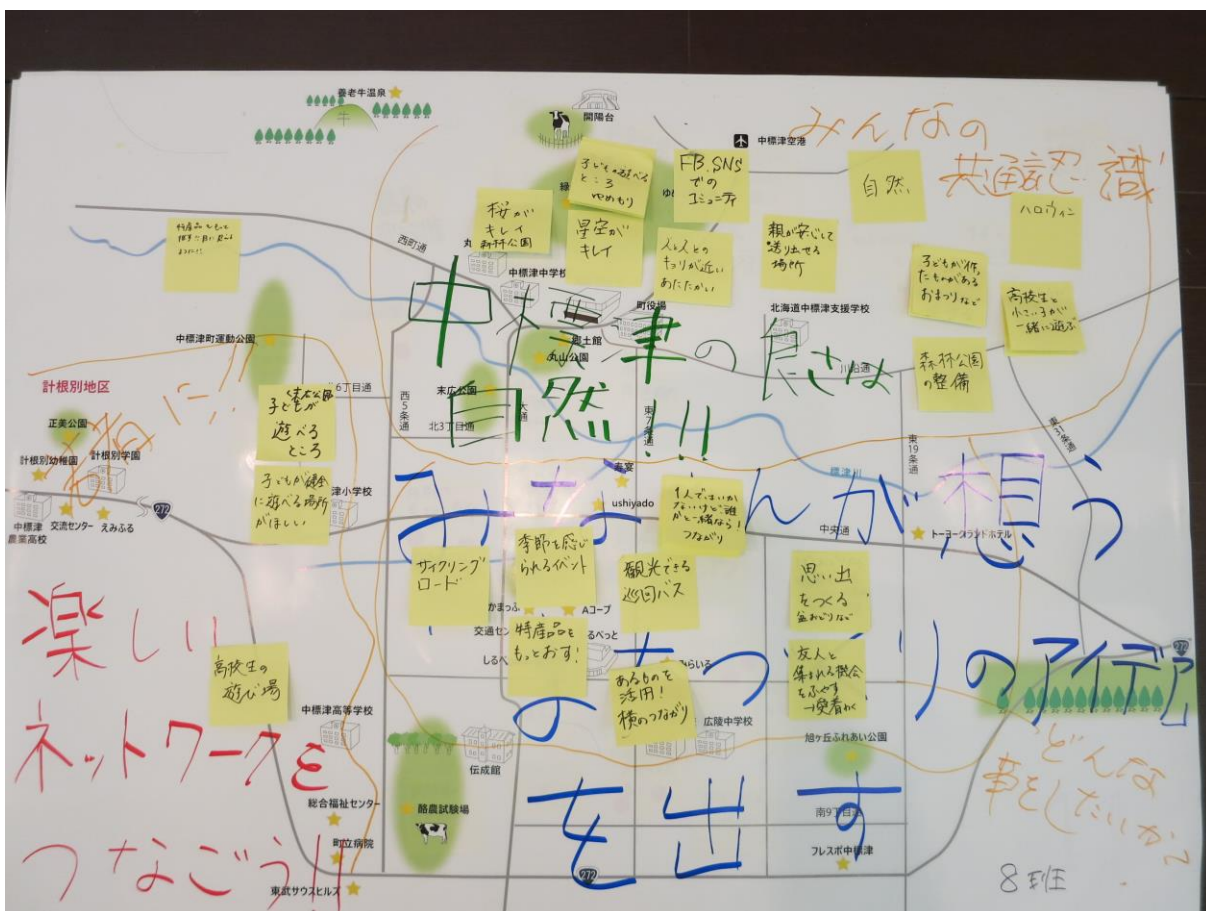


図 2-34 意見交換・発表（グループ8）の様子

⑨ グループ9

表 2-9 グループ9意見一覧

つば分類		付箋の内容
まちなか		特産品が1か所で買える場所
まちなか		外でカフェのように過ごせる場所
まちなか		空き店舗や空き地利用。観光につながるような。
まちなか		企業を呼び込む（夏の間）
まちなか		優良企業、工場等の誘致
まちなか		広い空き地太陽光発電ばかりではない活用
まちなか		空港から市街地への見た目や整備※観光向け
まちなか		教員住宅跡地の活用
公園・公共施設		ハロウィンイベント
公園・公共施設		末広公園を蘇らせる（例）町内会ごとに花壇整備
公園・公共施設		7条公園の現状。有効利用できるように。
公園・公共施設		丸山公園を利用できるように工夫！※整地し、宿泊等。
公園・公共施設		道の駅。郷土館との施設等
公園・公共施設		俵橋小跡地の活用
公共交通		町内バス乗り放題キップ。土日や夏休みなど
計根別		計根別の子供の遊び場、お年寄りの散歩等も楽しめる
その他	医療	患者・高齢者に優しい施設、病院
その他	医療	専門医がいる安心できる住みやすい街に！！
その他	医療	病院の身売り
その他	エネルギー	バイオマス
その他	教育	部活動やねじれ現象の解消。合唱⇔吹奏
その他	教育	一貫教育をやりやすい環境づくり
その他	ネットワーク	町の軸を整備する

⑩ グループ10

表 2-10 グループ10意見一覧

つば分類		付箋の内容
まちなか		道路を止めて歩行者天国、坂道でスキー・スノーボー
まちなか		たいこがステキ
まちなか		年数回歩行者天国（車両通行止め）
まちなか		ダッチオープン料理コンテストをやってビールを飲む
まちなか		非日常が楽しい
まちなか		町の総合案内場もバスセンターを活用して町のみんなが参加できるスペースに！
まちなか		バスセンターの中で町のアピール！
まちなか		しるべつと、バスセンター、役場、小さなカフェ・飲食店などで導入できるよう、補助金交付など…
まちなか		Wi-Fi つながるところあればいい
身近な地域の拠点		お年寄りの方が子育て世代を助ける仕組みづくり→保育園の補助
身近な地域の拠点		冬の間のコミュニティスペースづくり（ホビー/教養/運動）
公園・公共施設		公園でミニイベント（音楽・タイコ）
公園・公共施設		丸山公園でサウナテント→ビール飲む
公園・公共施設		公園を使ったイベント！（無料で気軽に行けるようなもの）
公園・公共施設		丸山公園でサウナテントをはってビールを飲む
公園・公共施設		図書館の設置
公園・公共施設		運動の施設がそろっているので合宿施設や、旅館との提携によりスポーツをより盛んに！！
公共交通		地域バス、タクシーの充実
公共交通		移動手段の充実
公共交通		バスに GPS アプリと連動、自動乗降可能な路線。出発時間は決まっている。
歴史文化資産（伝成館など）		白樺並木にベンチを置いてたそがれる
その他	しかけ	大人のガチの運動会
その他	しかけ	お年寄りのための UberEats サービス
その他	しかけ	道路を止めてそり滑り大会
その他	しかけ	地域単位で中標津巡りツアー！
その他	しかけ	学校行事以外で地域の人と思い出作り
その他	しかけ	町中学校の横のつながりをつくる
その他	情報発信	町の情報を集約する仕組み（暮らしの情報（おこまりごと）、イベント情報、町のいいところの PR/写真）
その他	情報発信	公式インスタ
その他	情報発信	中標津の式な場所を写真に貼って勝手に自慢する
その他	情報発信	まちの総合案内所が欲しい。生活・観光合わせて
その他	新規施設	1 年中スケートを楽しめる施設があったらいい。
その他	ネットワーク	除雪した雪をまとめておくスペースが欲しい。
その他	ネットワーク	冬場の歩道の安全（雪山で道路側を歩かなくてはならないことも）



図 2-36 意見交換・発表（グループ10）の様子

⑪ グループ 11

表 2-11 グループ 11 意見一覧

つば分類		付箋の内容
まちなか		東 1 条通りの整備と丸山公園まで行ける「橋」をつくること
まちなか		若い人が住んでみたいと思えるところをつくる
まちなか		年寄りが集まれる場所他
まちなか		若者の元気を活かす
まちなか		上の世代によるサポート
まちなか		空き家・店舗の利活用
まちなか		サテライトオフィス
まちなか		余分なものがないのがよい
まちなか		商業施設の増加
まちなか		山も見える
まちなか		防風林に囲まれている
公園・公共施設		開陽台で星座勉強会
公園・公共施設		臭気対策
公園・公共施設		星が見える
公園・公共施設		歴史が見える
公園・公共施設		ゆめの森公園
歴史文化資産（伝成館など）		試験場のあり方
広域交流拠点（中標津空港など）		駐車料金が取られない（空港）
その他	現状・特徴	農家さんがみんな個性的
その他	しかけ	みんなで養老牛を考えたい
その他	しかけ	脱ブラ
その他	しかけ	温泉の空き対策
その他	しかけ	日本語学校の学生たちとの交流する場（どこに住むの？）
その他	しかけ	日本語学校。学生を巻き込む。
その他	情報発信	インターネットを活用した町の PR
その他	情報発信	津波の心配がないアピール
その他	組織づくり	観光ボランティア
その他	組織づくり	モノではなくヒト
その他	組織づくり	町内会加入促進条例



図 2-37 意見交換・発表（グループ11）の様子

⑫ グループ１２

表 2-12 グループ１２意見一覧

つば分類		付箋の内容
まちなか		歩きやすい歩道
公園・公共施設		野外フェス、企業誘致、春のおまつり、観光バス送迎、道の駅化、テント屋台 etc…
公園・公共施設		夜の開陽台遠足
公園・公共施設		星みながら飲む。送迎バス付
公園・公共施設		くる理由。海を見て故郷を思う。
公園・公共施設		望遠鏡
公園・公共施設		開陽台フェス、春
公園・公共施設		やきとり、出会い
公園・公共施設		道の駅をつくる
公園・公共施設		春や秋にもお祭りを実施
公園・公共施設		野外常設ステージをつくる
公園・公共施設		朝まで飲める場所を増やしたい
公共交通		バスの時刻表、路線図の見やすいものをつくる
歴史文化資産（伝成館など）		伝成館を資料館にする
その他	教育	スポーツの有名な高校を呼ぶ
その他	しかけ	フードバンク作りたい
その他	しかけ	子ども食堂作りたい
その他	しかけ	特産品の工場見学ツアー
その他	しかけ	道外や外国人向けの農業体験のサービス
その他	新規施設	バイパスのさらなる商業化
その他	新規施設	博物館・美術館をつくる
その他	ネットワーク	線路の跡地のフットパス化



図 2-38 意見交換・発表（グループ12）の様子

(3) 対話の場のまとめ

対話の場で見られた意見を見ると、ツボのテーマに関する意見としては、「まちなか」が22%と最も多く、次いで「公園・公共施設」が19%、「身近な地域の拠点」が5%となっています。

また、「その他」として分類している地域全体に関する意見も多数あり、まちづくりのイベントなどの「仕掛けづくり」や、子どもたちの「教育」、「組織づくり」や「情報発信」に関する意見が比較的多く挙げられました。

これらの意見のうち、シール投票の票数が多い意見及びグループ発表の際に紹介された意見について、分類ごとに一覧に整理するとともに、マップ上にその概要を整理します。

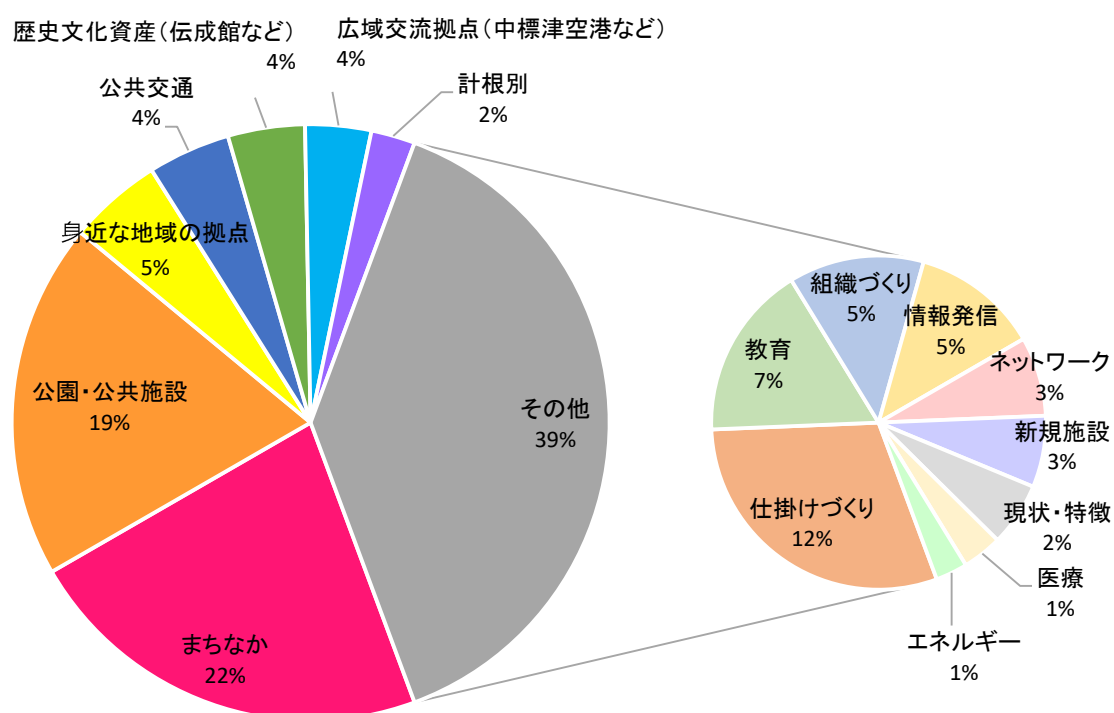


図 2-39 対話の場で見られた意見の分類

表 2-13 「まちなか」に関する主な意見

場所	付箋の内容	グループ
まちなか	日本語学校の生徒さん達とイベント	1
まちなか	まちなかに観光客、地元の人が集える場所をつくる	1
まちなか	飲食店やお店のスタートアップをするような場所	2
まちなか	開業したくても家賃が高いのでなかなかスタートする勇気が出ない。補助金をもっとあれば。	2
まちなか	ハンドメイド販売（詳しくは口頭で）	2
まちなか	ハンドメイドの人口が多い。管内からの問い合わせが多い。年齢が高くても作品を買ってもらえる場として、町主催として行えば、お年寄りでも生きがいにつながり良いのではないか。イベントを組む、無料で場所を開放してくれれば	2
まちなか	中心街空地で公設民営酒場を開いてほしい	4
まちなか	子供からご年配の方が一緒に交流（多世代交流）	4
まちなか	若者が遊ぶ場所つくること！！（Eスポーツ等）	4
まちなか	歩行者がいない。公園に人がいない。見守れない。	5
まちなか	ソフト面で希薄な関係性になっている	5
まちなか	安全な街づくり→子供のひとり歩きOK	5
まちなか	公共施設の統廃合を町民と考える。	5
まちなか	便利なところへあぐらをかいている	5
まちなか	対話の場づくり「大人も子供も」	5
まちなか	一条通り、つり橋	6
まちなか	空き店舗を利用した高校生カフェの運営	6
まちなか	連続でイベント（例）朝市	6
まちなか	中心市街地歩く人が少ない	7
まちなか	起業家の誘致	7
まちなか	特産品が1か所で買える場所	9
まちなか	外でカフェのように過ごせる場所	9
まちなか	優良企業、工場等の誘致	9
まちなか	非日常が楽しい	10
まちなか	町の総合案内場もバスセンターを活用して町みんなが参加できるスペースに！	10
まちなか	Wi-Fi つながるところあればいい	10
まちなか	若い人が住んでみたいと思えるところをつくる	11
まちなか	年寄りが集まれる場所他	11
まちなか	若者の元気を活かす	11
まちなか	空き家・店舗の利活用	11
まちなか	余分なものがないのがよい	11

表 2-14 「公園・公共施設」に関する主な意見

場所	付箋の内容	グループ
開陽台	開陽台で星座勉強会	11
開陽台	臭気対策	11
開陽台	星が見える	11
開陽台	野外フェス、企業誘致、春のおまつり、観光バス送迎、道の駅 化、テント屋台 etc…	12
開陽台	夜の開陽台遠足	12
開陽台	星みながら飲む。送迎バス付	12
開陽台	くる理由。海を見て故郷を思う。	12
開陽台	望遠鏡	12
開陽台	開陽台フェス、春	12
開陽台	やきとり、出会い	12
開陽台	道の駅をつくる	12
開陽台	春や秋にもお祭りを実施	12
開陽台	野外常設ステージをつくる	12
開陽台	朝まで飲める場所を増やしたい	12
開陽台、緑ヶ丘公園	カメラ好きな方を呼ぶ。地元には写真家がたくさんいるみたい	5
開陽台、緑ヶ丘公園	カメラマンツアーを考える（道内・道外）	5
末広公園	ハロウィンイベント	9
末広公園	末広公園を蘇らせる（例）町内会ごとに花壇整備	9
丸山公園	丸山公園利用はじの駅	6
丸山公園	丸山公園を利用できるように工夫！※整地し、宿泊等。	9
丸山公園	道の駅。郷土館との施設等	9
丸山公園	丸山公園でサウナテントをはってビールを飲む	10
緑ヶ丘森林公園	330° マラソンを本州に宣伝	1
ゆめの森公園	ゆめの森公園	11
ゆめの森公園・緑ヶ丘公園	残したいエリア	4
公園	公園を使ったイベント！（無料で気軽に行けるようなもの）	10

表 2-15 「身近な地域の拠点」に関する主な意見

場所	付箋の内容	グループ
家庭菜園	家庭菜園教室的なもの	1
家庭菜園	教えてもらうお年寄り	1
全体	楽しい防災、避難練習、お茶会に集まる感じで顔を合わせる	6
中標津東小学校・広陵中学校	学校に多世代交流時間とスペース	6
中標津東小学校・広陵中学校	子供と大人をつなぐイベント（大人ってカッコイイ）	6

表 2-16 「公共交通」に関する主な意見

場所	付箋の内容	グループ
全体	バスの利用券が欲しい、小さなバス	1
計根別地域	デマンド型交通機関を→子供・老人に自由を！！	5
計根別地域	町営バスを見直したい	5
計根別地域	自動運転の早期導入	5
国道 272 号線	小さいバス。路線増。	6

表 2-17 「歴史文化資産（伝成館など）」に関する主な意見

場所	付箋の内容	グループ
伝成館	歴史の生き証人。守り活用したい。	4
伝成館	伝成館。中標津町の原点をわかってもらうため。	6
白樺並木	白樺並木にベンチを置いてたそがれる	10

表 2-18 「広域交流拠点（中標津空港など）」に関する主な意見

場所	付箋の内容	グループ
中標津空港	北方四島の空路をつくる。四島のロシア人との交流。	4
中標津空港	空港を遊びに行く場所にする	5
観光協会	観光の案内所（観光協会）	6
観光協会	観光の交差点。道の駅観光協会	6

表 2-19 「計根別」に関する主な意見

場所	付箋の内容	グループ
計根別	空き店舗を活用し、コミュニケーションの場をつくる	4
計根別	計根別の子供の遊び場、お年寄りの散歩等も楽しめる	9

表 2-20 その他の主な意見

分類	場所	付箋の内容	グループ
仕掛けづくり	北根室ランチウェイ	中標津に来たくなるイベント（他にはないもの）	1
仕掛けづくり	北海道中標津支援学校	ワンプレートの料理を。中標津産（農高とのつながりができればよい）	2
仕掛けづくり	全体	食文化は人を寄せる	7
仕掛けづくり	全体	若い人が働ける場所が少ない。大学が必要。	7
教育	全体	働いている人たちのすごさを知ることができれば1回出てもまた戻ってくる選択肢になる	2
教育	全体	高校生の目的を持たない子たちにも、ベンチャー的な話を聞ける機会があったらよい。中標津で、たくさん頑張っている人がいるので、そういう人に話をきくのもよい。	2
教育	中標津高校・農業高校	中標津高校と農業高校との交流→活動を見れる機会がもっとあれば…→町内（まちなか）なので少しはわかりやすいが…	2
教育	全体	部活動やねじれ現象の解消。合唱⇔吹奏	9
組織づくり	全体	役場の部署にイベントを仕切る部署があると、町主催のほうがまとまる→継続していきやすい	2
組織づくり	全体	趣味を持った人が、町作りにつながっていけるきっかけをつくる場	2
組織づくり	全体	調整する組織があればいい。イベント開催する。	2
組織づくり	全体	大人も子供も町民ファシテータを増やす	6
組織づくり	全体	町作りは人作り	7
組織づくり	全体	行政と町民の連携	7
組織づくり	全体	コミュニティスクール→町内会加入率へ	7
情報発信	全体	町民に情報を落とし込むことで、若い人も町外に出ても戻ってきてくれる。町内のイベントはいつもバラバラで統一感がない。	2
情報発信	全体	中標津でいろいろなことをやっている人がいるのに知らないことが多い。もったいない。そこそこの団体がそれぞれで動いている。	2
情報発信	北海道中標津支援学校	陶器等を作ったりしている活動をもっと町の人たちに	2
情報発信	まちなか	発信がヘタ（内気なの）	5
エネルギー	全体	電力問題、ソーラー会社タイアップ（ブラックアウト）	1
エネルギー	全体	太陽光パネルの目隠し	6
新規施設	南1号道路	南1号道路。農地を利用して道の駅を作る。	1

2-2-4 講評

掛川市協働環境部 部長 栗田 一吉氏

- ・ みなさんの地元愛溢れるアイデアに感心した。
- ・ アミューズメントに関する話や、歩行者天国を作るといった話があった。掛川市では、掛川駅からお城まで 400 メートルくらいの道路があり、週末は一定の間隔で歩行者天国にして軽トラ市などのイベントをやっている。アニメについては、例年 11 月にポップカルチャーサミットというのをやっていて、痛車やコスプレの撮影会なども行っている。
- ・ 屋台村の話があったが、帯広の屋台村を参考に駐車場を改装して開始してから、10 年近く経つ。そこで修行してある程度たったら独立してもらおう仕組みとなっている。市役所を退職して飲み屋をやっている人もいる。
- ・ 交通の話があったが、掛川市もバスがたくさん走っているが、ほとんどが空気を運んでいるようなもので、それを何とかするために、来年の 4 月から半年間実証実験を行うこととしている。70 歳以上の人はただで一部の路線を乗れるようにしてもらう。タダなら乗るのか、タダでも乗らないのか確かめたい。
- ・ 今日の意見を聞いて大変参考になったので、持ち帰って共有したい。

北海道大学名誉教授 小林 英嗣氏

- ・ もう 20 年近く中標津町とはお付き合いをしているが、今日ほど活発にまちの方が意見を出した場はなかったのではないかなと思う。
- ・ まちづくりというと道路を作ったり、建物を作ったりという「作る」ほうに目が行ってしまうものである。確かに 20 年くらい前は作ることが主体であったが、町長も言っていたように、これまで十分作ってきたのである。今は、それを使いこなせているかが、全国的な問題となっている。
- ・ これからは、どんどん街を使い倒していこう、というのが令和のまちづくりになってくる。これからのまちづかいという意味でも、皆さん「活用」ということを色々言っていたと思う。
- ・ もう一つ大切なのは、高校生や子どもという視点が出てきたが、今までまちづくりを考えると、自分のことを何とかしてほしいという要望が多かった。若い世代やお子さんのことを考えて、子どもたちにいかにいい贈り物をするかが大切である。
「子どもに贈るまちづくり」を意識の中で持たれているのではないかな。その意識の中で高校生や中学生の話を聞いて吸収しなくてはならない。
- ・ この間パリにお店を出している小林圭という人が日本人で初めて三ツ星を取ったが、フランスの料理人は、日本の発酵食品にものすごい興味を持っている。発酵する味付けは日本独特で、単に足し算するのではなくて、そこには技術や文化がある。まちも、時間がどんどん立っていくと、「発酵するまち」と「腐っていくまち」がある。発酵するために必要なのは酵母である。「熟していくまち」には、まちの中に志や思いなどを持った酵母になるようなまちの人がいる。逆に酵母になるまちの人がいないと腐っていく。

- ・ そんなことを思いながら見ていたが、今日は酵母になるような人が来ているので、今後まちが発酵していくような動きがあり、また、酵母は酵母を呼ぶので、さらに増えていくのではないかと思います。
- ・ 今までのまちづくりは、行政がビジョンや計画をつくって予算の範囲内で進めていくものであった。計画やビジョンを作る人はとても少なく、江戸時代はお殿様や知恵者が、明治になって政府が作ってきた。戦争が終わって日本はアメリカのモデルを取り入れた。
- ・ これから何かを作ることは必要ないのだから、日本の考え方でまちを発酵させなければならない。皆さんが発酵させるためのビジョンを作らなくてはならない。
- ・ こういう機会を何度も繰り返していくこと、そして行政の皆さんは住民の方を信じて色々なことを付託していくことが重要である。
- ・ これからを楽しみにしながら、どんどん酵母を増やして欲しいと思う。



図 2-41 講評の様子

第3章 フォーラム参加者アンケート

3-1 調査票

まちづくりフォーラム 参加者アンケート				
問 1 あなたの性別、年齢、お住いの地区を教えてください（あてはまるもの 1 つに○）				
①性 別	1. 男性 2. 女性			
②年 齢	1. 15～19 歳 2. 20～29 歳 3. 30～39 歳 4. 40～49 歳 5. 50～59 歳 6. 60～69 歳 7. 70 歳以上			
③お住いの地区	1. 川西 2. 西町 3. 西泉 4. 東泉 5. 南泉 6. 泉中央 7. 緑町 8. 清泉 9. 標ヶ丘 10. 南町 11. 末広 12. 第 1 宮下 13. 第 2 宮下 14. 桜ヶ丘 15. 栄 16. 中央 17. 日の出 18. 旭第一 19. 旭第二 20. 白樺 21. 東中 22. 東 23. まこと 24. 睦 25. 明生 26. その他（ ）			
問 2 フォーラムの開催を知ったきっかけは何ですか？（あてはまるもの 1 つに○）				
1. 新聞の折り込みチラシ 2. 広報誌 3. 知人・関係者からの誘い 4. 町のホームページ、SNS 5. その他（ ）				
問 3 第 1 部の話題提供はいかがでしたか？（あてはまるもの 1 つに○）				
1. とても良かった 2. 良かった 3. 普通 4. つまらなかった				
問 4 第 2 部の対話の場はいかがでしたか？（あてはまるもの 1 つに○）				
1. とても良かった 2. 良かった 3. 普通 4. つまらなかった				
問 5 今回のような対話の場にまた参加したいと思いますか？（あてはまるもの 1 つに○）				
1. 参加したい 2. 参加したくない 3. わからない				
※今後、イベントなどのご案内を差し上げますので、希望される方は、下記にご連絡先を記入してください。				
（お名前）		（メール）		
（ご住所）〒				
問 6 フォーラム全体を通しての感想や、気づきがあれば教えてください。				

図 3-1 アンケート調査票

3-2 調査結果

(1) 問 1 あなたの性別・年齢・住んでいる地区（あてはまるもの1つに○）

【性別】

- 回答者の性別は、男性 33 人（67.3%）、女性 16 人（32.7%）となっています。

設 問	回答数	割合
男性	33人	67.3%
女性	16人	32.7%
合計	49人	100.0%

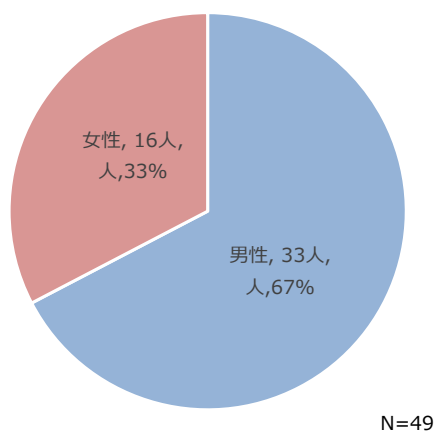


図 3-2 性別

【年齢】

- ・ 年齢の割合は、10 歳代（15～19 歳）と 20 歳代が 10%以下、30 歳代は 29.4%代、40 歳代～60 歳代が 10%代、70 歳以上が 9.8%となっています。

設 問	回答数	割合
10歳代	3人	5.9%
20歳代	4人	7.8%
30歳代	15人	29.4%
40歳代	9人	17.6%
50歳代	8人	15.7%
60歳代	7人	13.7%
70歳以上	5人	9.8%
合計	51人	100.0%

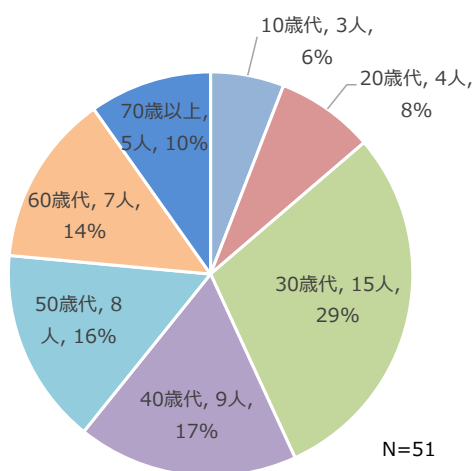


図 3-3 年齢

【地区】

- ・ 住んでいる地区は、西町・東中が 10%と最も多く、次いで桜ヶ丘・睦 8%となっています。

設 問	回答数	割合
西町	5人	10.0%
東中	5人	10.0%
桜ヶ丘	4人	8.0%
睦	4人	8.0%
清泉	3人	6.0%
旭第一	3人	6.0%
東泉	2人	4.0%
南泉	2人	4.0%
末広	2人	4.0%
中央	2人	4.0%
旭第二	2人	4.0%
東	2人	4.0%
その他エリア	14人	28.0%
合計	50人	100.0%

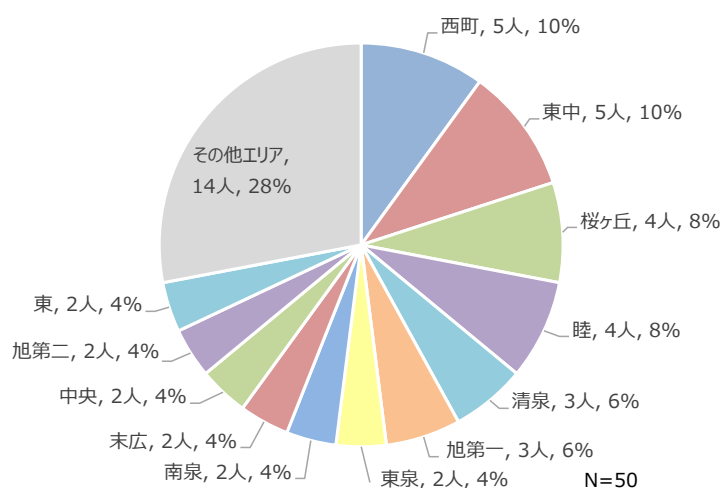
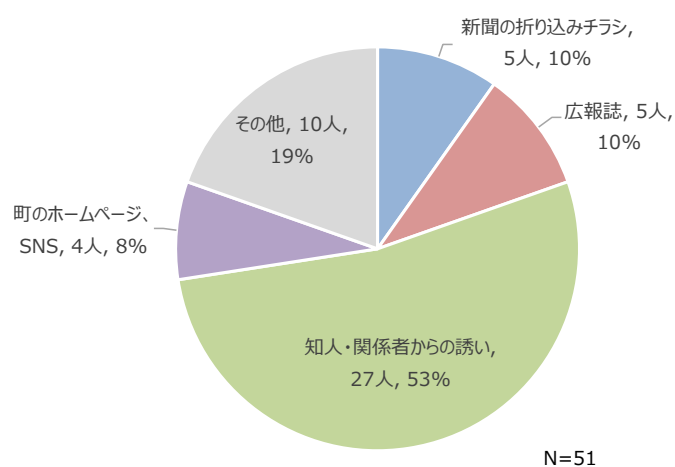


図 3-4 住んでいる地区

(2) 問 2 フォーラムの開催を知ったきっかけ（あてはまるもの 1 つに○）

- ・ フォーラムの開催を知ったきっかけについては知人・関係者からの誘いが 52.9%最も多く、次いで新聞の折り込みチラシ、広報誌が 9.8%となっています。

設 問	回答数	割合
新聞の折り込みチラシ	5人	9.8%
広報誌	5人	9.8%
知人・関係者からの誘い	27人	52.9%
町のホームページ、SNS	4人	7.8%
その他	10人	19.6%
合計	51人	100.0%



■その他の内容

内 容	回答数
回覧板	2 人
学校	2 人
役場からの案内	2 人
教育委員会	1 人
職場	1 人

図 3-5 フォーラムの開催を知ったきっかけ

(3) 問3 第1部の話題提供（あてはまるもの1つに○）

- 第1部の話題提供については、良かった50.0%、とても良かった44.0%となっています。

設 問	回答数	割合
とても良かった	22人	44.0%
良かった	25人	50.0%
普通	2人	4.0%
つまらなかった	1人	2.0%
合計	50人	100.0%

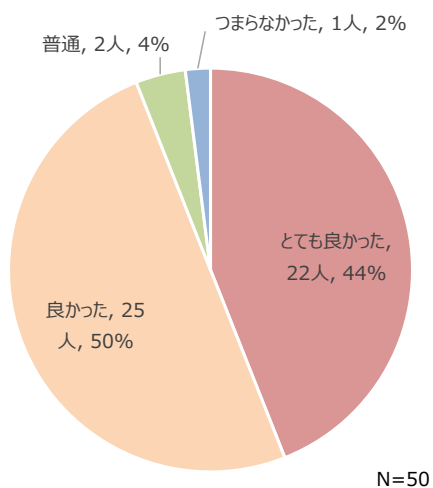


図 3-6 第1部の話題提供

(4) 問 4 第 2 部の対話の場（あてはまるもの 1 つに○）

- 第 2 部の対話の場については、とても良かったが 68.8%と最も多く、次いで良かったが 31.3%、となっています。

設 問	回答数	割合
とても良かった	33人	68.8%
良かった	15人	31.3%
普通	0人	0.0%
つまらなかった	0人	0.0%
合計	48人	100.0%

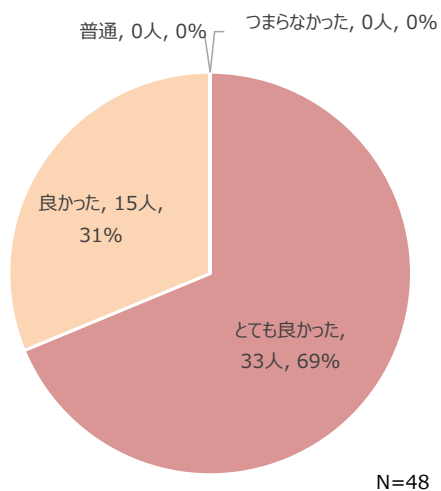


図 3-7 第 2 部の対話の場

(5) 問 5 対話の場への参加意向（あてはまるもの1つに○）

- 対話の場への参加意向については、参加したいが86.3%となっています。

設 問	回答数	割合
参加したい	44人	86.3%
参加したくない	0人	0.0%
わからない	7人	13.7%
合計	51人	100.0%

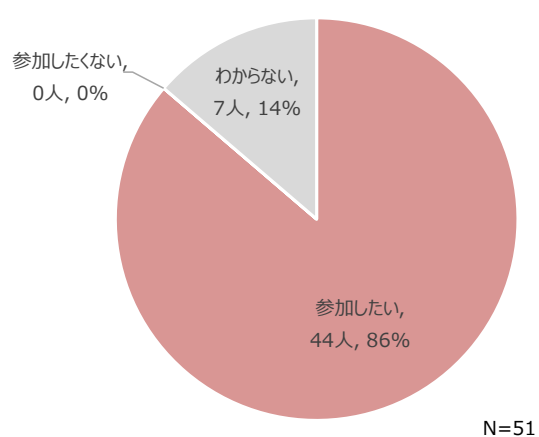


図 3-8 対話の場への参加意向

(6) 問 6 フォーラム全体を通しての感想や、気づき（自由記述）

もう少し話し合いの時間→発表の時間もほしかった。→この意見を町の HP 等で町民に公開して、さらに意見を広げてほしい。町民投票があると面白い。
大勢の町民の方が参加しとてもよかった。新しい顔もあり広がりを感じた。
いろいろな立場にいる方の意見や思いを聞く機会となり大変勉強になりました。” 対話の場” の大切さを実感しました。
対話がとても有意義だったと感じています。
楽しかったです。ありがとうございました。
掛川市との関係がよくわかりませんでした。おもしろい集会でした。北大の先生のお話、興味深く、もっと聞きたかったです。
途中退場で残念です。
時間が短く感じました。
様々なアイデアを各班で話し、その街が実現できれば、魅力ある街になると思います。この内容（各班の様々なアイデア）を広報誌等で町民に知らせるべきだと思います。またこの内容のうち3つぐらいは実現させるための取り組みをしないと、町民の思い（この中標津を良くしよう。そのために考えようという意識）が変わっていかないと思います。実現を目指しましょう。
中標津のまちづくりアイデアがたくさん出て色々な意見を聞くことができてよかった。
各テーブルの付箋を集計してまとめてみてほしい。
他の人の意見は自分では考えたことのないことも多く、視野が広がる良い機会となった。
町民と協働とはいえ、現状では個々の自立ができない。役場の取り組みも再編し、無理無駄をなくしてほしい。縦割り行政では中標津はなくなりますよ。
とてもスムーズな進行でいろいろな新鮮な意見が聞けて楽しかったです。
もっともっと多くの人が参加してくれるといい意見が集まると思う。今日みたいに高校生の意見をもっと聞いてみたい。
このような場を増やしてほしい。テーマを絞り、フォーラムを行う。
このフォーラムを多くの町民が参加できる（数を増やす）。
多くの方がまちづくりに対する思いを持っていると感じた。
世代の幅も広く対話していて色々なアイデアが出て良かったです。もっと若い人参加してくれたら良いなと思います。これからは情報発信がとても大切で重要であると思う。中標津のまちのこと、そこに住む人のことを、全国、海外へ発信し、知ってもらふことどんどんできたら良いなと思う。人材の活用、人をつくることで町が発展する。人とのつながりを持てる場がもっともっと広がればよいなと思います。
とても有意義な時間でした。これをムダにしないように活用してほしいです。また継続的に開催することを希望します。
まちづくりカステラおいしかったです！！
改めて中標津の良さ実感しました。
いろいろと勉強になりました。ありがとうございました。
対話の時間は楽しく、意見も多かったため、時間が足りなく感じた。
運営の方がよく話しやすい環境をつくってくれてとてもよかったと思う。
今回の意見が少しでも活かされることを願います。
大変良かったです。若い世代の参加が特によかった。